

2025 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 1 日

第 3 限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 24 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 35 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

AIは膨大なデータをきわめて高速に処理できるコンピュータ上で動作しているプログラムである。その動作の基本は、同じ電圧と形をもつデジタル信号のオン・オフだけであり、オンを1、オフを0として使う2進数だけで論理演算と信号処理を行っている。このデジタル信号はきわめて高速に動作し、現在の標準的なパソコンでも、1秒間に800億回の浮動小数点演算が可能である。浮動小数点とは、数字を $\times \times \times \times \times$ (YのZ乗にXをかける)の形式で表すことであり、桁数の大きな数字でも同じ形式で表せるという利点があるが、計算に時間がかかるため、コンピュータの性能(演算速度)を見るときにあえて使われることが多い。演算の回数にはフロップスという単位が使われ、1秒間に800億回であれば80ギガ・フロップスとなる(1ギガは10億)。もちろん高性能のAIには、標準的なパソコンよりもはるかに高性能なコンピュータ、あるいはスーパーコンピュータが使われることが多い。

一方、ニューロンの発火は1回に約1ミリ秒を要するため、1秒間にせいぜい1000回が限度である。しかも、それが次のニューロンに信号を伝える際には、膜電位というアナログ的な変化を介するため、数ミリ秒の遅れが生じる。またいうまでもなく、脳が1秒間に演算できる浮動小数点は、たとえ暗算の名人でも1〜2回が限度であろう。しかも、コンピュータの回路を流れる電気信号は、神経線維を流れる信号より数百万倍も速い。さらに、ニューロンは増殖することがあり、神経回路の構造は常に変化しており、また損傷されても他の回路が変化し機能を代償する。このようにコンピュータと脳は、構造についても、またそこを流れる信号についても、まったく性質が異なっている。コンピュータ上のプログラムであるAIの動作が、^A脳の動作を解明する上でまったく参考にならないことは明らかである。

たしかにAIは多くの場面で人にとって代わり、また人の能力を **I** しつつある。しかしそのことは、すべての面で人の能力を超えていくことを意味しない。AIは特定の場面でのみ使える能力しかもたないからである。当時、世界最強の囲碁棋士であったイ・セドル九段を破ったAI「アルファ碁」は、囲碁以外は何もできない。一方、イ・セドルは、言語を自由に使

うことはもちろん、料理もし、小説も読み、映画も楽しめる。AIの高性能化は、
らほらに、AIの脆弱性と危険性が次第に指摘されるようになってきた。

II

。そして高性能化とはう

現在のAIが得意とする分野の一つが画像認識(パターン認識)である。ディープラーニングとコンピュータの高速化が相まって、過去の膨大なデータを検索し比較することで、人が見逃してしまうような些細な画像の変化を迅速に検出できるようになった。しかし同時に、人の認識にはまったく影響しない些細なノイズが混ざるだけで、非常に不可解な回答を出してしまうことが、しばしば報告されている。

ア 人はまちがえるとはいえ、これらはさすがにあり得ないミスであり、AIによる自動運転の車など、まだとても怖くても乗れない。

イ また、画像全体に非常に薄いノイズを重ねるだけで、まったく違う画像であると回答することもわかっている。パンダの画像に、人にはほとんどわからないようなノイズを重ねるだけで、雄羊であると回答し、全体の色調を変えると、今度はテディベアと回答した。

ウ たとえば、交通標識を認識する際、「止まれ」と書かれた標識の一部に小さなシールを貼るだけで、AIは「時速45キロメートル制限」というまったく異なる標識と判断した。

エ あるいは、道路を横切る人と、風で飛ばされてきたポリ袋を区別できなかったこともあるという。

これではAIによる病理診断など、まだとても信用できない。

このようなミス、つまり誤認自体、大きな問題であるが、さらに大きな問題は、AIがなぜ誤認したのかという理由が、なかなかわからないことである。計算方法もプログラムも人が開発したものであるから、どこに原因があるのかすぐにはわかんないが、そうではない。たしかにプログラムにより実行されるプロセスをタンネンに追うことは可能である。しかし、コ

コンピュータの性能の向上を最大限活用し、膨大なデータを膨大な計算で処理することができるようになった結果、そこで計算され処理される膨大な量の数字を人が追えなくなっており、どこの計算結果が悪かったのかわからないのである。そしてこのことは、AIのミス、つまり、もとは人がつくったプログラムのミスを回避する方法もわからないことを意味する。

現在、インターネット上で共有されているプログラムを利用しリモートでAIを騙す方法(アルゴリズム)がいろいろと考案されており、実際、多方面でAIを混乱させている。このような、いわゆる「敵対的攻撃」は、これからも **III** 増えるであろうが、AIのどこがどのように混乱したのかわからないことが多い以上、ボウエイは苦戦を強いられている。

これまで述べてきた事実からわかるように、AIが認識する方法は、人が認識する方法とまったく異なっている。たしかにAIの機能は向上したが、決して人に、 **IV** 脳に近づいてはいない。そもそも、脳とはまったく違う人工的材料からつくられた構造物(コンピュータ)の中で動作し、脳とはまったく違う方法で信号を伝達し処理しているのであるから、同じようなシステムであるはずがない。

V 脳にはAIに必要な起動ボタンやプログラム開始の命令も必要ない。構造、動作、働き方のすべての面でまったく違うものである以上、脳が生み出す心をAIも生み出すと考えることには、当然、無理がある。AIが自由意思をもつことはあり得ず、常に与えられた課題や目的に向かって動くだけである。

(中略)

いつかAIが特定の課題専用のシステムではなく万能のシステムになり、心もちうると主張する人たちが好む言葉がシンギュラリティ(技術的特異点)である。これは、技術が果てしなく進歩するという考え方であり、AIが進歩すると、その進歩したAIがさらに優れたAIをつくり、それがさらに優れたAIをつくるということを繰り返すことで、現在では予想もできないスーパーAIができると考える。しかし、それでもAIがコンピュータという機械で動作するプログラムであることは変わらないであろうし、そもそも、技術の進展が永遠に続くという発想にも無理がある。どんな技術にも制限があり、実際、コンピュータの処理能力はそろそろ限界に近づきつつあり、論理演算からなるプログラム以上の何かになるとは考えにくい。

いつか高性能なAIをトウサイした高性能なコンピュータがヒトの脳を完全にコピーし、その内容、つまり心を読み出してコ

コンピュータ上にダウンロードできるようになるという予想もある。あるいは、心を読み出してコンピュータに移し、それを他者の脳にインプットすることで、言葉を介さずに人と人が直接コミュニケーションをとれるようになるという予想もある。しかし、これらはとてもありそうにない。もし、心がコンピュータに移せるとすれば、それは心がコンピュータで計算できるデジタルデータ、つまり数列、関数、数式等ですべて記述できるということを意味するからである。たしかに、キアヌ・リーブスが主演したSF映画の大傑作「マトリックス」では、そのような未来が描かれていた。しかし、それは映画の世界だけである。数字や数学は、しよせん人が考え出した方法であり、自然界には、人の行動も含め、数式で忠実に記述できない現象は山ほどある（大まかな確率でなら記述できるのかもしれないが）。脳の中で起きているアナログ的で超複雑な現象も、またそこから生まれる心も、そのような現象の一つであると考えるべきである。

AIの性能は今後も向上し、一部では人の能力をまします

I

していくであろう。しかし、AIが指す将棋が、どんな

名人よりも強くなった現在でも、人々は将棋を楽しみ、藤井聡太さんの勝利に感動し、対局中の昼食で何を食べたかまで知りたがる。どうせAIの方が強いのだからと考え、将棋が面白くなくなるといふことはない。AIが人ではないことがわかっているからである。2008年の北京オリンピックでウサイン・ボルトが9秒68というキョウイ的な世界新記録を出したとき、どうせ車の方が速いのだから大したことではないと考えた人はいなかったであろう。車が人ではないことがわかっているからである。

今心配すべきことは、AIが人になることや、AIによる人の支配ではなく、この便利な道具のプログラムミスであり、すでに問題となっているその誤用と悪用である。

（櫻井芳雄『まちがえる脳』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある）

〔注〕 *ニューロン……………生物の脳を構成する神経細胞。

*膜電位……………細胞膜の内外に生じる電位差。

*ディープラーニング……………人間の脳神経回路を模した機械学習。大量のデータが持つ特徴を自動的に学習し、データの相

互関係や法則を導き出す。

*ウサイン・ボルト……………ジャマイカの陸上競技短距離選手で、100メートル競走の世界記録保持者。

問一 傍線部 a ～ d のカタカナと同じ漢字を含むものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d

a タンネン

- ① タンリョをいましめる
② 会談のタンシヨをつかむ
③ コンタンを見破る
④ 悪事にカタンする
⑤ タンセイをこめた米作り

b ボウエイ

- ① 故人のゲンエイ
② エイリの追求
③ エイセイ中立国
④ エイセイ的な環境
⑤ 新進キエイの作家

c トウサイ

- ① 恐怖でソツトウする
② 空港のトウジョウ手続き
③ 雪解け水のシントウ
④ 前例をトウシユウする
⑤ 大会でのケントウを祈る

d キョウイ

- ① 親切にキョウシユクする
② キョウコクにかかる橋
③ 阿鼻キョウカンの出来事
④ キョウテン動地の大事件
⑤ キョウハク文が届く

問一 傍線部 A「A Iの動作が、脳の動作を解明する上でまったく参考にならないことは明らか」なのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

5

① 高性能なコンピュータを用いないと本領が発揮できない A Iに対し、人の脳は神経線維の比較的遅い信号伝達でも十分な機能を果たせており、A Iよりも脳の研究を進めた方がより有意義であると考えられるから。

② たとえ動作が似ているようにみえたとしても、A Iがコンピュータという人の脳とは構造も信号伝達の方法も異なる基盤によって成立している以上、本質的に別の仕組みによって成り立っていると考えた方が妥当であるから。

③ 人の脳は損傷しても、他の回路が変化することで機能を代償することが知られているが、なぜそれが可能になるかについては、いくら高性能なコンピュータで A Iを動作させたとしても明らかにすることは容易ではないから。

④ A Iを動かすコンピュータがデジタル信号でやりとりするのに対し、ニューロンが信号を伝達する際にはアナログ的で非効率な仕組みを経る必要がある、A Iと比べて人の脳の能力が劣ることは否定し難いことだから。

⑤ A Iと人の脳は、同じ浮動小数点の演算を行うにしても実際にはそれぞれがまったく別の計算式を用いていることは疑いようもなく、両者の動作の結果を並べて比較することには、ほとんど意味がないとみられるから。

問二

空欄

I

(二か所ある)に入ることで最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

① 坐視ざし

② 凌駕りょうが

③ 超克

④ 揶揄やゆ

⑤ 毀損

問四

空欄

II

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 専用システムとしての高性能化にすぎない
- ② 新しい時代へのゲームチェンジャーとなり得る
- ③ パラダイムの再生産の一端を担うものである
- ④ 個別のオプションの選択を困難にする
- ⑤ 人としてのアイデンティティを揺るがしかねない

問五

問題文中のア～エの文をもとの順番に並べ替えたものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。

8

- ① ア↓イ↓エ↓ウ
- ② ア↓ウ↓イ↓エ
- ③ イ↓ア↓エ↓ウ
- ④ イ↓ウ↓ア↓エ
- ⑤ ウ↓イ↓ア↓エ
- ⑥ ウ↓エ↓ア↓イ
- ⑦ エ↓ア↓ウ↓イ
- ⑧ エ↓イ↓ア↓ウ

問六 傍線部B「さらに大きな問題」に筆者が注意を促すのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

9

- ① 悪意をもってつくられたプログラムのインターネット上の共有によって、リモートでおこなわれるAIへの「敵対的攻撃」が今後も増加していくことを示すものだから。
- ② コンピュータの性能向上とともにAIが自ら計算方法やプログラムをつくり出すことが可能となり、人がAIの進歩をコントロールできなくなりつつあることを示すものだから。
- ③ 人の能力で確認できる規模を超えた量のデータを扱うというAIの特性が、結果的に人がAIのミスの原因を追求したり回避したりすることを困難にしていることを示すものだから。
- ④ 人であればほとんど問題なく対応できる些細なノイズにさえ過敏に反応してしまうのは、AIがプログラムの根本部分に脆弱性と危険性を抱え込んでしまっていることを示すものだから。
- ⑤ AIを騙す新手的アルゴリズムが続々と登場しているにもかかわらず分析を放棄してしまっているのは、人々がこの問題への対応策を立てること自体を断念しつつあることを示すものだから。

問七

空欄

III

IV

V

に入ることをばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。(同一記号の反復使用は不可)

① つまり

② はじめに

③ ちょうど

④ もちろん

⑤ やっと

⑥ ますます

III 10

IV 11

V 12

問八 傍線部C「これらはとももありそうにない」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① AIを活用した、人同士の言葉を介さない直接的なコミュニケーションを実現するためには、まずはあらゆる自然現象を一度デジタルデータとして記述していくという膨大な作業が求められるから。
- ② たとえば人の行動は数式を用いて大まかに記述することはできるが、脳の超複雑な構造についてはそれすらも困難であり、今後いくら高性能なコンピュータが出現したとしても無意味だと思われるから。
- ③ 心のデジタルデータがなされた未来の世界を描くSF映画などもあるが、そこに数学などに依拠した科学的な裏付けが本来にあるわけもなく、しよせんは人による空想の産物でしかないから。
- ④ コンピュータ上に心を移そうとすれば、その膨大なデータを数式で計算できる超高性能なコンピュータが必要となるが、永遠に続くような技術の進展がなければとても実現しないと考えられるから。
- ⑤ デジタルデータに完全に置き換えられない自然界の現象は数多くあるが、アナログ的な伝達回路によって成り立つ脳の複雑な働きやそこから生まれる心も、それと同様であると推察されるから。

問九 傍線部D「今心配すべきこと」に当てはまる事例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① AIがいつも簡単に魅力的な絵を作り出してしまったために、人が絵を描く機会や動機そのものが奪われてしまうこと。
- ② 本人と顔も声も瓜二つの人物が出てくる偽の演説映像がAIによってつくられ、発言がでっち上げられてしまうこと。
- ③ シンギュラリティに到達したAIが万能のシステムへと進歩し、人に取って代わって新たな社会を構築してしまうこと。
- ④ AIの汎用性の高まりにともない、近いうちに一般事務職と呼ばれる種類の仕事に携わる人員が不要となってしまうこと。
- ⑤ 学生が小論文を書く際にも、議論の叩き台となる複数の案をAIにまず挙げてもらうことが当たり前となってしまうこと。

問十 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① プログラムであるAIはデジタル信号のオン・オフだけで論理演算と信号処理を行なっているが、人の脳ではニューロンの発火・停止によってそれらを行なっており、両者のあいだには差異よりも同質性が目立つ。
- ② 囲碁の勝負には敗れたにせよ、それでもイ・セドル九段の方がAIよりも優れているといえるのは、彼が言語を操る能力に加え、料理や芸術といったものを楽しめる豊かな人間的感性を持つ存在だからである。
- ③ AIと人の脳は、構造、動作、働き方の全ての面でまったく異なっているが、それでもなおAIが心を生み出すのではないかと人々が恐れてしまうのは、我々の社会の根底に科学への不信感があるからであろう。
- ④ さらにAIの進歩のためにはコンピュータのより一層の高性能化が必須となるのだが、近年ではその処理能力の向上が頭打ちとなっており、この壁を打ち破るシンギュラリティへの到達が待ち望まれている。
- ⑤ 人は将棋など特定の領域ではすでにAIにかなわなくなっているが、それでもなお人が将棋を楽しみ、その勝負に関心を失わずにいられるのは、AIと人があくまで別物であることを理解しているからである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、修行者のありけるが、津国^{つのくに}まで行きたりけるに日暮れて、竜泉寺とて大きな寺の古^{ふる}りたるが人もなきありけり。これは人宿らぬ所といへども、そのあたりにまた宿るべき所なかりければ、いかがせむと思ひて、笈^{おび}打ちおろして内に入りてけり。

不動の呪^{じゆ}を唱へてゐたるに、「夜中ばかりにやなりぬらむ^A」と思ふ程に、人々の声あまたして来る音^いすなり。見れば、手ごと火をともして、百人ばかりこの堂の内に来集ひたり。近くて見れば、目一つきたりなどさまさまなり。人にもあらず、あさましき子どもなりけり。あるいは角生ひたり。頭もえもいはず恐ろしげなる子どもなり。恐ろしと思へども、すべき様^Bもなくなれば、おのおのみなるぬ。一人ぞまた所もなくてえぬずして、火をうち振りて我をつらつらと見ていふやう、「我^aがあるべき座に新しき不動尊こそる給ひたれ。今夜ばかりは外におはせ^C」とて、片手^bして我を引きさげて堂の縁の下に据ゑつ。さる程に、「暁になりぬ^c」とて、この人々ののしりて帰りぬ。

「まことにあさましく恐ろしかりける所かな、とく夜の明けよかし。往なむ^D」と思ふに、からうじて夜明けたり。うち見まはしたれば、ありし寺もなし。はるばるとある野の来し方も見えず。人の踏み分けたる道も見えず。行くべき方もなければ、あさましと思ひてゐたる程に、まれまれ馬に乗りたる人どもの、人あまた具^dして出^eで来たり。いとうれしくて、「ここはいづくとか申し候ふ^E」と問へば、「などかくは問ひ給ふぞ。肥前国^{ひぜんのくに}ぞかし」といへば、「あさましきわざかな^F」と思ひて、事のさま詳しくいへば、この馬なる人も、「いと希有^{けう}の事かな。肥前国にとりてもこれは奥の郡なり。これは御館^{みたち}へ参るなり」といへば、修行者悦^{よろこ}びて、「道も知り候はぬⁱⁱに、さらば道までも参らむ」といひて行きければ、これより京へ行くべき道など教へければ、舟尋ねて京へ上りにけり。

〔宇治拾遺物語〕による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕 *津国……摂津国のこと。現在の大阪府・兵庫県の一部。

*笈……諸国を修行する僧が仏具や衣類などを入れ、背負って歩いた箱。

*肥前国……現在の佐賀県・長崎県のほぼ全域。

問一 傍線部A「にやなりぬらむ」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

16

- ① 格助詞「に」、係助詞「や」、動詞「なる」の連用形、完了の助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の連体形が接続したもの。
- ② 格助詞「に」、間投助詞「や」、動詞「なる」の連用形、完了の助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の終止形が接続したもの。
- ③ 完了の助動詞「ぬ」の連用形、係助詞「や」、断定の助動詞「なり」の連用形、打消しの助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の連体形が接続したもの。
- ④ 格助詞「に」、係助詞「や」、断定の助動詞「なり」の連用形、完了の助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の終止形が接続したもの。
- ⑤ 格助詞「に」、間投助詞「や」、動詞「なる」の連用形、打消しの助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の連体形が接続したもの。
- ⑥ 係助詞「にや」、断定の助動詞「なり」の終止形、完了の助動詞「ぬ」の終止形、推量の助動詞「らむ」の終止形が接続したもの。

問二 波線部 i 「なり」、ii 「ぬ」の助動詞の意味・用法として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

i なり

- ① 可能 ② 推定 ③ 意思 ④ 断定 ⑤ 過去

ii ぬ

- ① 完了 ② 存続 ③ 打消 ④ 過去 ⑤ 婉曲

i 17

ii 18

問三 傍線部 B 「様」、D 「具して」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

B 様

- ① 理由 ② 方策 ③ 状態 ④ 気分 ⑤ 時機

D 具して

- ① 荷を積んで ② 引き連れて ③ 馬に乗って ④ 賑にぎわって ⑤ 意を決して

B 19

D 20

問四 傍線部 a 「我」、b 「我」がそれぞれ誰のことを指しているか、組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|------------|----------|---------|----------|
| ① a 修行者 | b あさましき者 | ② a 修行者 | b 不動尊 |
| ④ a あさましき者 | b 不動尊 | ⑤ a 不動尊 | b 修行者 |
| | | ⑥ a 不動尊 | b あさましき者 |
| | | | b 修行者 |

21

問五 傍線部C「この人々ののしりて帰りぬ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① あさましき者どもは、怒り心頭のまま帰っていった。
- ② 不動尊たちは、賑やかに会話をしながら帰っていった。
- ③ あさましき者どもは、大騒ぎをしながら帰っていった。
- ④ 不動尊たちは、大声で説教をしてから帰っていった。
- ⑤ あさましき者どもは、言い争いをしながら帰っていった。
- ⑥ 不動尊たちは、おのおの文句を言いながら帰っていった。

22

問六 傍線部E「などかくは問ひ給ふぞ」と言った理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 修行者から、普通であればわざわざ人に聞かなくとも分かるようなことを尋ねられ、不思議に思ったため。
- ② 修行者のような身分の低い者が状況も考えず話しかけてきたものの、一応は聞いてやろうと思ったため。
- ③ 馬に乗って急いで移動をしていた時に突然修行者から話しかけられ、足止めされたいら立ちがあつたため。
- ④ 話しかけてきた修行者の様子が尋常ではなく、何かに取りつかれたような表情をしており、心配したため。
- ⑤ 周囲を見回したり、突然うれしそうな顔になったりする修行者の不審な様子を見ており、警戒をしていたため。

23

問七

問七は問題として不適切であったためウェブサイトには掲載しておりません

24

問八

『宇治拾遺物語』と同じ時代に成立した作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 源氏物語

② 和漢朗詠集

③ 南総里見八犬伝

④ 万葉集

⑤ 新古今和歌集

25

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

優生思想は歴史において様々な悲劇を生み出し、許されない暴力の温床となってきました。それが許されないのは、社会が勝手に作り上げた力チカン^Aに基づいて、何の罪もない人の身体が脅かされるからです。つまり優生思想が、個人の自己決定権や、生命の尊厳を脅かすからです。

反対に言えば、個人の自己決定権や生命の尊厳が脅かされない場合、生殖細胞へのゲノム編集には、どのような倫理的懸念が生じるのでしょうか。

もちろん、両者が結びつくことによって、両親に遺伝性疾患をもった胎児を中絶することを強いる社会規範が形成されるとしたら、それは許容することができません。しかしそうした事態は、ゲノム編集が社会に普及したら必ず出現するとは限りません。I、慎重な法規制と議論の呼びかけによって、回避可能であるようにも思えます。

ナチズムにせよ、日本の優生保護法にせよ、それが倫理的に問題なのは、権力が優生思想を振りかざし、個人の権利を暴力的に侵していたからです。

一方で、ゲノム編集が社会に普及することで生じるのは、むしろ個人が自分の意志で優生思想に加担することではないでしょうか。優生思想が、権力によって押し付けられるものではなく、個人が選択できるサービスによって実現されるものとして、出現してくるのだとしたら、それは必ずしも個人の権利を脅かすものではなくなります。

もちろん、次のように反論することはできるでしょう。たとえ両親が自分の意志で生殖細胞へのゲノム編集を決断したとしても、その生殖細胞から生まれてくる子どもは、自分では何も決定していないのだから、これから生まれてくる子どもの自己決定権はやはり脅かされている——しかし、果たしてこれは有効な説明になっているでしょうか。

このような反論は、簡単に再反論されてしまいます。たとえば、生殖細胞は、後々は子どもとして生まれてくるとはいえ、それ自体ではまだ人間ではありません。そうである以上、生殖細胞に介入したとしても、それを個人の権利を脅かしたとは言えない

いでしよう。人間ではないものに権利はないからです。では、ゲノム編集と結びついた形で現れてくる優生思想には、何の問題もないと言いつつてよいのでしょうか。

ドイツの哲学者ユルゲン・ハーバーマスは、こうした新たな形態を取る優生思想を、「**II** な優生学」と呼びました。

「**II**」とは自由を意味する言葉です。すなわち **II** な優生学とは、個人の自由な意思決定と両立する優生学を指しています。

II な優生学は、権力によって行使され、個人の自由な意思決定を否定する優生学——ハーバーマスはそれを権威主義的な優生学と呼びます——とは異なり、一見して何の倫理的な問題も引き起こさないように思えます。しかし、実はそこには、これまでの私たちの社会を支えてきた根本的な前提を、ひっくり返す問題が潜んでいる、と彼は指摘するのです。

その根本的な前提とは、私たちが責任の主体として存在する、ということなのです。

責任の概念は、私たちが自分の人生を自分の人生として引き受けられる、ということを前提としています。ハーバーマスによれば、この前提を成り立たせているのは、私たちの人生がゼロからスタートする物語であるということ、その物語にはそれ以上遡ることができない始まりがある、ということなのです。そしてその始まりとは、すなわち、出生の瞬間に他なりません。

なぜ、自分の人生を引き受けるためには、それ以上遡ることのできない始まりが必要なのでしょう。それは、もしも「私」の出生に、それよりも遡ることができる原因があるなら、そのとき「私」の人生の物語は、その原因によってもたらされたものになってしまうからです。

「私」がこの世界に生まれてきたことは、まったくの偶然であり、それに先行する何らかの原因によってもたらされたものではない——そのように信じられるからこそ、私たちは自分の人生を、自分に帰するものだと受け止められます。

それに対して、もしも自分の出生に先行する原因を認めてしまったら、「私」は自分の人生を自分に帰するものではなく、その原因に帰するものだと考えてしまいます。そうなれば、「私」が責任の主体であるための条件が崩れてしまうのです。

ハーバーマスは、遺伝子操作がそのような形で責任概念の条件を **III** させると指摘します。このことを、ミュウツォーを

例に考えてみましょう。

ミュウツウは、人間によって最強のポケモンとして出生させられました。もしも人間が最強のポケモンを作ろうとしなければ、ミュウツウがこの世界に出生することは決してありませんでした。ミュウツウの外見、能力、性格などは、すべて、人間が意図的にデザインしたものです。したがってミュウツウがミュウツウであることは、決して偶然ではありません。それらはすべて、ミュウツウが出生するよりも前に、人間によって設計されたものだったのです。

このとき、ミュウツウの人生は、ミュウツウの出生とともに始まったとは言えないでしょう。それは、ミュウツウが生まれる前から、ミュウツウを設計した人々によって、始められてしまったということになるはずですが、だからこそ、ミュウツウが人生のなかで経験する事柄も、ミュウツウ自身に帰属するのではなく、設計した人間たちのほうに帰属することになります。

仮にポケモンバトルで好成績を収めたとしても、ミュウツウはそれを自分の手柄にすることができません。なぜならミュウツウの好成績は、人間たちがミュウツウをそのように設計したからこそ、得られたものであるからです。したがって、ミュウツウの手柄はそのように設計した人間たちに移ります。このときミュウツウは、人間たちが目的を達成するための、道具に過ぎないのです。

IV、ミュウツウが何らかの問題を起こし、人を傷つけたり、物を破壊したりしても、その責任はミュウツウにはありません。なぜなら、先ほどと同様に、そうしたポケモンにしたのは人間たちだからです。したがってミュウツウが起こした問題の責任は、ミュウツウではなく、設計した人間たちに帰属することになります。

このことは、秋葉原通り魔事件の加藤を想起させます。彼は、自分がこのような性格になったのは、親のせいであると述べていました。それはミュウツウが責任能力を奪われる事象と、ある意味でよく似ているのです。

筆者は、抑圧的な家庭環境が人間を **V** にさせ、無責任にさせると指摘しましたが、ハーバースは、遺伝子操作は家庭環境よりもさらに深刻な仕方人間から責任能力を奪うと指摘します。家庭環境であれば、後から改善することが可能ですが、遺伝子操作されて生まれてきた場合、その条件を後から変えることは不可能だからです。

ミュウツ―は、たしかに遺伝子を操作されて生まれてきました。しかし、彼には健康上の問題があるわけではないし、その世界の中では望ましい性質——すなわちバトルに強いこと——を与えられています。ミュウツ―はそこで生きることにも何も苦労しないでしょう。それでもミュウツ―は苦悩します。それは、おそらく、ミュウツ―が自分の人生を、自分の人生として生きられない、ということに由来します。

このように考えるなら、遺伝子操作は結局のところ、親ガチャ的厭世観えんせいかんと同じ問題を引き起こすことが分かります。

優生思想に基づく遺伝子操作は、これから生まれてくる子どもの身体を、その出生に先立って設計することで、子どもから責任の能力を奪います。それは、生まれてきた条件をその後の人生で変えることができず、その結果として自分の人生を自分自身のものとして受け入れられないという、親ガチャ的厭世観のもたらす

V と、構造的に何も変わりません。そうである以上、遺伝子操作は、決して親ガチャ的厭世観の解決にはならないでしょうし、むしろそれを強化するように作用するかも知れないのです。

では、それに抵抗するために、この問題をどのように考えればよいのでしょうか。

そのヒントが、ハーバーマスの議論に含まれています。彼は、自分の人生に始まりがあり、それを一つの物語として理解できるといふ点に、責任概念の条件を見出していました。親ガチャ的厭世観に抵抗することができるとしたら、おそらくそれは、私たちがいかにして責任の条件を取り戻せるのか、自分の人生を自分の人生として引き受けられるのか、に懸かっているように思えます。

しかし、責任をどのように考えるか、ということとは、非常に繊細な問題です。繰り返しになりますが、親ガチャ的厭世観に染まるのは、苦境に陥っている人です。そうした人に対して、自分の人生を引き受ける、責任を取れ、と迫ることは、暴力的な自己責任論に他なりません。

(戸谷洋志とやひろし『親ガチャの哲学』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *優生思想……………遺传的素質をもとに「優秀な人」の子孫だけを残し、人間集団を「改良」しようとする考え方。現代では倫理的問題から強く批判されている。

*ゲノム編集……………DNAの一部を切断するなどして遺伝情報を人為的に改変し、動植物に望ましい特徴を発現させる技術。

*ポケモン……………ポケットモンスターの略称。一九九六年に任天堂が発売し、世界的人気を博したゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場する架空の生物の総称で、主人公はポケモンを集めたり育成してバトルしたりする。

*秋葉原通り魔事件……………二〇〇八年に東京の秋葉原で起きた無差別殺傷事件。十七人が死傷し、犯人の加藤は死刑となった。

*無責任にさせると指摘しましたが……………本文で用いている文章より前の章で筆者が指摘した内容。

*親ガチャ……………人の出生を「ガチャ」という電子くじにたとえ、どんな親のもとに生まれるかは選べないにもかかわらず、それに子の人生が大きく左右されることを表現した俗語。

問一 傍線部A「カチカン」を漢字に直したものととして、最も適当なものを次の①～⑥のうちから一つ選べ。 26

- ① 価値間 ② 価値感 ③ 価値観 ④ 可知間 ⑤ 可知感 ⑥ 可知観

問二 空欄 I・IV に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(同一記号の反復使用は不可)

- ① あるいは ② しかし ③ それでも ④ むしろ ⑤ とりわけ

I 27 IV 28

問三 傍線部B「個人が自分の意志で優生思想に加担する」とあるが、それが生じる可能性があるのはなぜか。説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 子が望ましい性質をもっていれば幸せになれると考え、優生思想に結びついたゲノム編集を望む人が増えるから。
- ② 国や社会をより良くしていくためには、個人個人が率先して優れた能力を発揮していくことが要求されるから。
- ③ ゲノム編集で遺伝性疾患がなくなれば医療費負担が減り、周囲の人に申し訳ない気持ちからも解放されるから。
- ④ 様々な理由から子どもを諦めた人は、自分の決断が正しいと確信したいために優生思想を主張しがちだから。
- ⑤ 多様化する社会に不安を抱いている人は、権威によって劣っているとされた存在を攻撃したいと考えやすいから。

問四 空欄

II

(四か所ある)に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

- ① シンプル
 - ② ラディカル
 - ③ ピースフル
 - ④ リベラル
 - ⑤ ユニバーサル
- 問五 傍線部C「私たちが責任の主体として存在する」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

31

- ① ナチズムや優生思想を振りかざしてきた権力に対し、私たちは監視の目を光らせ暴走を防ぐ責任があるということ。
- ② 出生の瞬間から私たちが祖先がたどってきた歴史を引き継いでいるので、責任ある行動をせねばならないということ。
- ③ 私たちが責任を負える範囲は自分自身の体だけに限られているので、子世代のゲノム編集は許されないということ。
- ④ 出生したばかりの私たちは無力なので、親などの大人が責任を持って養育しなければならぬ存在であるということ。
- ⑤ 出生前から人生に決定的に影響するものはなく、成功や失敗は私たち自身の行動の結果として責任を負うということ。

問六 空欄 に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 破綻
- ② 固定
- ③ 逆転
- ④ 醸成
- ⑤ 再考

問七 空欄 (二か所ある)に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 冷静沈着
- ② 無為自然
- ③ 自暴自棄
- ④ 残忍酷薄
- ⑤ 天衣無縫

問八 傍線部D「それでもミュウツーは苦悩します」とあるが、それはなぜだと筆者は考えているか。説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 人間によって作られたために親がおらず、自分がどういう存在なのかわからなくて非常に孤独であると考えているから。

- ② 勝利の手柄も問題を起こした責任も自分のものにならず、人生をコントロールできなくて空虚であると考えているから。

- ③ 初めから最強のポケモンとして作られたため、いくらバトルに勝ったとしても喜びを感じられないと考えているから。

- ④ 人間から道具扱いされ抑圧的な環境に置かれており、通り魔のような暴力衝動にさいなまれてしまうと考えているから。

- ⑤ 本当はバトル以外のことがしたいと望んでいるのに、人間に責任能力を奪われたせいで叶えられないと考えているから。

問九 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① 生殖細胞へのゲノム編集が社会に普及すれば、遺伝性疾患をもった胎児を中絶させるような社会規範が出現することは避けられず、重大な問題である。
- ② 生殖細胞はそれ自体ではまだ人間ではないが、後々には子どもとして生まれてくるので早い段階から権利を認め、親でも自己決定権を脅かすべきでない。
- ③ 人生が自分自身のものにならないと感じる時、私たちは人生の困難の原因を出生より遡ったところから始まる物語に求め、不可抗力であると心を慰めている。
- ④ 将来、人間の遺伝子操作が可能になれば、家庭環境による能力への影響を軽減することができるので、親ガチャ的厭世観に苦しむ人は少なくなる。
- ⑤ 自分の人生を生きられていないと感じている人は、様々な事情を抱え苦しい状況にあるので、ただ人生に責任を持つと迫るだけでは問題の解決にならない。

2025 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 2 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 24 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 35 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

数値化されるのは人だけではない。自然と社会を含む森羅万象が一九世紀にいたって数値で測られるようになった。そして、この数値化は、統計学の支配という形を取ってきた。たとえば現在、医療の世界では「エビデンス（根拠）に基づく医療（EBM）」が絶対的な価値を持つ。これは統計学的に病態を分析し、統計学的に有効であると認められた治療法を選択するという営みだ。一九九一年にカナダの医師ゴードン・ガイアットが提唱した考え方である。

医療のエビデンスにはいくつかのグレードがある。もっとも確度の高いエビデンスは、患者を、ランダムに薬を投与する群と薬を投与しない群というように二つの群に分けて有効性を検討するランダム化比較試験（RCT）を、さらに複数比較し、メタ分析した結果である。RCTの根っこには統計的^aなダトウ性の評価がある。統計的に検討された複数の試験を組み合わせること、ダトウ性を上げていく。〔ア〕

エビデンスによって有効な診断方法や治療法が整備されるということには異論がないし、私自身もエビデンスにもとづく医療を選ぶ。しかし病の経験は、エビデンスにもとづく選択だけでは語り切れない。

再発がんが進行しているので「急に具合が悪くなる」可能性があるから、と緩和ケアを探索ことを主治医から勧められた哲学者の宮野真生子^{みやのまきこ}は、エビデンスにもとづく医療において常に問題になるリスクについて次のように述べている。

リスクと可能性によって、「がんが再発した」私の人生はどんどん細分化されていきます。しかも、病と薬を巡るリスクはたくさんありますから、そのなかで、良くない可能性が人生の大半の可能性を占めるように感じ、何も起こらず「普通に生きてゆく」可能性はとて小さくなったような気がしています。（中略）

でも、このリスクと可能性をめぐる感覚はやっぱりどこか変なのです。

おかしさの原因は、リスクの語りによって、人生が細分化されていくところにあります。そのとき患者は、いま自分の

目の前にいくつもの分岐ルートが示されているように感じます。それぞれのルートに矢印で行き先が書かれていて、患者たちはリスクに基づく良くないルートを避け、「普通に生きていける」ルートを選び、慎重に歩こうとします。

けれど、本当は分岐ルートのどれを選ぼうと、示す矢印の先にたどり着くかどうかはわからないのです。なぜなら、それぞれの分岐ルートが一本道であるはずがなく、どの分岐ルートもそこに入ってしまったら、また複数の分岐があるからです。

エビデンスによって有効とされる治療を選ぶプロセスには際限がない。病が進行していくプロセスのなかで、効果が出る確率が高い治療法が選ばれることが多いだろう。しかし確率が高いといっても「四〇%の人にはこの治療法が有効であった」という意味であり、残りの六〇%の患者には効かない。つねに数値をめぐって患者は「効かないかもしれない」と不安な状態に置かれることになる。宮野はこの手紙から半年ほどのちに四〇代前半で亡くなったが、エビデンスに基づくリスク計算に追われてしまうと、人生の残り時間が確率と不安に支配されるものになってしまうだろう。「イ」

科学哲学者のイアン・ハッキングは、世界そのものが数学化したときに、世界は統計(確率)によって支配されることになったと書いている。

世界が自然法則によって支配されているとみなす決定論的な自然科学の展開のなかで統計学は発達し、社会および人間は統制可能で予測可能なものとなっていく。

アメリカのゴールデンアワーのテレビでは、(中略)露骨な暴力シーンよりも、確率について語られることの方が多いのである。新聞をにぎわせる恐怖が、確率を使って繰り返し語られる。その可能性(偶然・確率) chance があるのは、メルトダウン、癌、強盗、地震、核の冬、エイズ、地球温暖化、その他である。恐怖の対象は(たぶん)これらではなくて、実は確率そのものなのである。

統計学が力を持つ現状は、自然と社会のリアリテイの在^{あり}処^かがある。当初、統計は世界のリアリテイについてのある程度の傾向を示す指標と見なされていたが、次第に統計が世界の法則そのものであると考えられるようになった。統計は事実に近いキンジチ^キではなく事実そのものの位置を獲得するのだ。先のハツキングはいう。

たとえば一九八八年、日本が遂に世界一の長寿国になったことが注目を集めた。我々は、ちょうど日本企業が投資のための可処分資本を世界一蓄積しているのと同じくらいリアルに、平均寿命の伸びを日本人の生活や文化の現実的な姿と感じてしまうのである。

- i ましてや一人ひとりの高齢者が具体的にどのような暮らしをしているのかを示すわけではない。
- ii このように、「平均寿命」という単なる数字が日本を構成する事実そのものとなる。
- iii 独居なのか、病院で寝たきりなのか、認知症なのか、もしかしたら元気なのか、同じ九〇歳でもさまざまだろう。
- iv 一人ひとりの日本人は早く亡くなることも長寿のこともあるのだから、「世界一の長寿国」というラベルが個人の余命を説明するわけではない。

医療現場においてのみ、リスクが息苦しさをもたらすわけではない。学校や会社といった組織、そして社会全体は、リスクを予防するという視点でメンバーの行動を決め、行動を管理し、しばりつけようとする。「そんなことしたら危ないよ」という注意を子どもの頃に受けたことがない人は少ないだろう。学校の生活はさまざまな校則でしぼられていることが多いが、これらは大人が外部からなにか非難を受けないために、生徒をあらかじめしぼりつけるものである。子どものためと見せかけて、大人が自分の不安ゆえに子どもの行動を制限しようとしている。〔ウ〕

そもそもリスク計算を重んじる社会が生まれる前提として、社会学者のウルリヒ・ベックは、経済活動における個人主義、自己責任論による支配の問題点を挙げている。現代人はコミュニティによって守られることなく自分一人で自分の生活のイジに責任を負っているのであり、失敗があっても自分のせいなのだ。社会は個人を非難こそすれ守りはしない。自己の責任、^cだけではない。「そんなことをして責任とれるんですか」という言葉を投げるときには他者を非難し、規範にしばりつけている。

個々人が責任ある行為者とみなされ、行為がもたらすネガティブな結果のリスクが計算される。さらには、そのリスクに責任を負うのは、国やコミュニティといった集団ではなく個人である。このような社会では、未来のリスクを見越して個人個人が備えることが、**II** 的な行動となる。

このことは、人は外から強制されるのではなく自ら進んで、社会規範にしたがっていく身振りにつながる。高校生に規範意識を問うた大規模な調査でも、社会学者の平野孝典ひらのたかのりによると、現代の高校生は校則を守り、規則違反には憧れを持たないという結果が出た。^F〔E〕

社会の実質が変化して「不確実でリスクに満ちた社会」になったというよりも、数値化されたことで社会や未来がリスクとして認識されるようになった。ともあれ、数値による予測が支配する社会、そして個人に責任が帰される社会は不安に満ちており、社会規範にジウジュンdになることこそが **II** 的なのだ。弱い立ち位置に置かれた人ほど、上からやってきた規範にジウジュンになることでサバイブしようとするだろう。〔オ〕

（村上靖彦むらかみやすひこ『客観性の落とし穴』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある）

〔注〕 *メタ分析……………同じ研究テーマの実験について、これまでに公表された結果を複数集めてサンプル数を大きくすることで、実験ごとに生じる様々な誤差を修正し、より正確な結果を得ようとする分析手法。

*メルトダウン……………原子炉の冷却装置が事故や災害で止まった際に、ウラン燃料が溶け落ち、炉の底に溜まってしまふこと。そのままになると高熱で原子炉の底が溶け、放射性物質が外に漏れるおそれがある危険な状態。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

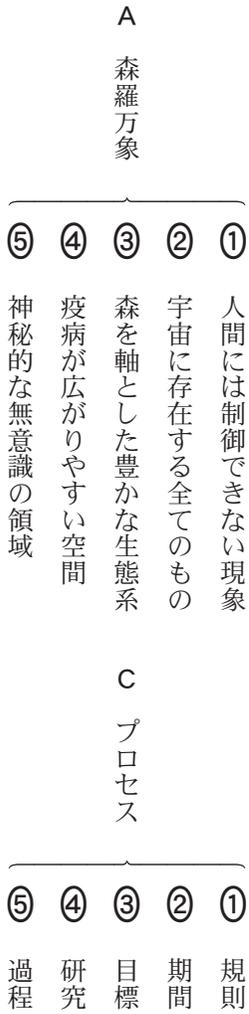
リスク計算は自分の身を守るために他者をしぼりつけるものなのだ。

- ① [ア]
- ② [イ]
- ③ [ウ]
- ④ [エ]
- ⑤ [オ]

問二 傍線部A「森羅万象」、傍線部C「プロセス」の問題文中の意味としてもっとも適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

A 2

C 3



問三 傍線部 a ～ d のカタカナと同じ漢字を含むものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d

a ダ|トウ

- ⑤ いい匂いにダ|エキが出る
 ④ 友達とダ|ガシを持ち寄る
 ③ 経済がダ|ゲキを受ける
 ② ダ|キョウの末の選択
 ① タイダ|な生活を改める

b キン|ジチ

- ⑤ 二人ドウジ|に手を挙げる
 ④ ルイジ|した画像を選ぶ
 ③ ジ|モトの特産品を買う
 ② 先生のシジ|をおおぐ
 ① デンジ|シャクを作る

c イ|ジ

- ⑤ 食物セ|ンイ|を摂る
 ④ イ|サンを相続する
 ③ イ|クジなしと言われる
 ② 期限イ|ナイに提出する
 ① 歴史に名を残すイ|ジン

d ジュウ|ジュン

- ⑤ ジュン|シんな性格の人
 ④ 環境にジュン|ノウする
 ③ 季節がイチ|ジュンする
 ② キ|ジュンを明確にする
 ① ジュン|タクな運営予算

問四

傍線部B「人生が細分化されていく」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

8

- ① 病の経験を通じて、患者はエビデンスにもとづく選択だけでは語れない人生のかけがえない瞬間を見つめ直し、示された分岐ルートからリスクの低い「普通に生きていける」ルートを選んで、慎重に人生を送ろうと決意するということ。
- ② 病と葉を巡るリスクはたくさんあるので、患者は「普通に生きていける」というそれまでの人生観を覆され、以前は気に留めなかった人生のマイナス面を細部まで意識するようになり、不安に支配された分岐ルートを進んでしまうということ。
- ③ 病気によって「普通に生きていける」可能性が低くなってしまうと、患者は長期的な人生プランを描けなくなり、目の前に示される分岐ルートのどれを選んで同じと考えて、リスク計算をやめてその場限りの思考になってしまうということ。
- ④ 分岐ルートが示されると、患者はエビデンスにもとづいて「普通に生きていける」確率が高い選択をするが、その先でも何度もリスク計算に迫られるために、残りの人生が確率と不安に支配された満足度の低いものになってしまうということ。
- ⑤ エビデンスにもとづいて効果が出る確率が高い治療法を選んでも、患者はつねに「効かないかもしれない」と不安な状態に置かれるので、他にも細かく分かれた分岐ルートがあったのではないかという後悔にとらわれてしまうということ。

問五 傍線部D「恐怖の対象は(たぶん)これらではなくて、実は確率そのもの」とあるが、そのような傾向が生じるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

9

① 世界が統計(確率)によって支配されているために、多様な見方で物事を見る自由が失われたことを恐ろしく思うから。

② 視聴者を引きつけたテレビが、恐ろしい出来事が起こる確率を不当に高く報道しているのではと疑心暗鬼になるから。

③ 世界を数字で認識する現在では、恐ろしい出来事自体より、それが高い確率で起こる予測により強い不安が生じるから。

④ 核の冬など自然と社会のリアリティを超える出来事に対しては、実感しやすい確率をもとに恐怖を抱くことになるから。

⑤ 複数の恐怖が確率を使って繰り返し語られることで、客観的に見て世界が絶望的な状況であると強く感じてしまうから。

問六

空欄

I

・

II

に入ることをばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(同一記号の反復使用は不可)

① 具体

② 抽象

③ 巨視

④ 微視

⑤ 合理

⑥ 背理

I

10

II

11

問七 問題文中の i、iv の文をもとの順番に並べ替えたものとして最も適当なものを、次の ①～⑧のうちから一つ選べ。

- | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|-------------------|---|-------------------|---|-------------------|
| ① | i ↓ iii ↓ iv ↓ ii | ② | i ↓ iv ↓ ii ↓ iii | ③ | ii ↓ i ↓ iii ↓ iv | ④ | ii ↓ iv ↓ i ↓ iii |
| ⑤ | iii ↓ i ↓ ii ↓ iv | ⑥ | iii ↓ iv ↓ ii ↓ i | ⑦ | iv ↓ i ↓ iii ↓ ii | ⑧ | iv ↓ ii ↓ iii ↓ i |

12

問八 傍線部 E 「現代人はコミュニティによって守られることなく」とあるが、この箇所での「コミュニティ」の人間関係の例

として適当でないものを、次の ①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① 家族・親戚
- ② 学校のクラスメイト
- ③ 同じ電車の乗客同士
- ④ 近所の住民同士
- ⑤ 学園祭実行委員メンバー

問九 傍線部 F 「現代の高校生は校則を守り、規則違反には憧れを持たない」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次

の ①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① みんなで規則を守れば、トラブルが起きる確率が下がり安全に過ごせると思っているから。
- ② 規則違反をして問題が起きた時に、自己責任を問われて非難されることが不安だから。
- ③ 現代では単に生徒をしぼるためだけの校則は少なくなり、規則違反する必要がないから。
- ④ 規則違反に憧れることを、無責任で恥ずかしいことだと思っている高校生が多いから。
- ⑤ 現代の高校生は個人主義なので、規則違反に憧れるほど校則に関心を持っていないから。

問十 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① エビデンスに基づく診断方法や治療法には際限がなく、患者の不安を深くするばかりなので、「私」はこれに反対である。
- ② 日本が世界一の長寿国となったのは、統計に基づいて病死のリスクを減らし、一人ひとりの余命を伸ばした成果である。
- ③ 統計の数字はあくまで事実がどのような傾向を持つかの指標だが、現代人は統計が事実そのものだと認識しがちである。
- ④ 個々人が責任ある行為者とみなされる現代では、リスク計算で失敗を防ぐことこそ、社会が個人を守ることにつながる。
- ⑤ 弱い立ち位置に置かれた人は、起死回生の機会をつかんでサバイブしなければという思いから、リスクを冒しがちである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある人はいはく、人は高き賤しきをいはず、ものの心つかば、若くより主に仕へて、私をかへりみ、家起し、身を立つる道をよく案じて、なにごとにつけても身をやすくせず、箕裘の業をむねとして、そのかたの営みをあひはげむべし。愚かなるたぐひ、親のあまやかし、乳母のもてなすにしたがひて、いつとなくかからむずると思ひて、なりたたむ末のこともわきまへぬなり。

また親もあひそへて、愛子に咎や忘るらむ、後の毒をかへりみず、その子を教へせせがまぬだに不便なるに、せめてのいとほしさのあまりには、「人の報いは来たるものなれば、かせぐによらず、能も無益なり。今あるやうもありなむ、われありて、あらむかぎりは、わびしとは思はで、思ふさまなれ」とさへ、荒涼のことをいひ知らせつれば、さらぬだに、心は悪しきかたにひくものなれば、「げに、さり」と思ひて、いかが手にもかからず、悪き友だちを語らひ、酒盛りをのみ好み、博奕に心を入れるほどに、とりどころなき徒者に生ひ立つなり。

これも親も子も思ひはかりなきより、あることなり。かかるもの、たまたま宮仕へを思ひ立つとも、さる振舞をするうへは、心に入る主もなし。仏神は広く衆生を哀れみ給へども、不信のものは利生にあづかること少なく、主人はあまねく使はれ人をはぐくめども、不用のともがらには、恩顧ほどこしがたし。

しかれば、おほかたの道理、さることなれども、したる所作もなく、そらに果報を期せむこと、おほきにはか
I のはか
らひなり。かやうのことをいふものは、心のいたりてもくさく、性のきはめて不覚なるが、いたすところなり。まづ、あるべからむ振舞を用意して、そのうへ果報を待つは、流れに棹ささむごとし。

『十訓抄』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。

〔注〕 *箕裘の業……………父祖から継ぐ家業。

*せせがむ……………注意する、責める。

*おほかたの道理……………一般的な道理。ここでは、前世の因縁によってすべての物事は決まっているのだという考え方をいう。

問一 傍線部 i 「やすく」、ii 「わびし」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一

つずつ選べ。

i やすく

① 軽んじて

② 安全に

③ 楽に

④ みつともなく

⑤ 安っぽく

i 16

ii 17

ii わびし

① 申し訳ない

② 悔しい

③ 気まずい

④ つらい

⑤ 有り難い

問二 波線部 a 「らむ」、b 「つれ」の助動詞の意味・用法として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一

つずつ選べ。

a らむ

① 婉曲

② 原因推量

③ 存続

④ 受身

⑤ 過去

a 18

b 19

b つれ

① 伝聞

② 推量

③ 可能

④ 完了

⑤ 当然

問三 傍線部 A 「いつとなくかからむずる」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

20

- ① いつか自分を甘やかしてくれた親や乳母とも離れる時が来るだろう。
- ② いつまで親や乳母の愛情を頼りにして過ごしていけるかは分からない。
- ③ いつかは親や乳母に自分を甘やかしてくれた恩を返さなければいけない。
- ④ いつまでも自分は親や乳母に甘やかされて暮らしていきたいものだ。
- ⑤ いつでも親や乳母が自分を甘やかしてくれるのが普通なのだろう。

問四 傍線部 B 「げに、さり」は誰の言葉か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

21

- ① 主
- ② 親
- ③ 乳母
- ④ 子
- ⑤ 仏神

問五 空欄 I に入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 不定
- ② 必衰
- ③ 神妙
- ④ 幽玄
- ⑤ 悲願

問六 傍線部C「流れに棹ささむごとし」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 望ましくない振る舞いをした挙げ句に果報だけを願っても、流れに棹をさすように、果報が来るはずがないということ。
- ② 立派な振る舞いをしたいと願ったうえで果報まで待つのは、流れに棹をさすように、欲張りすぎて両方得られないということ。
- ③ 優れた振る舞いをするによって果報を得たいと願うのは、流れに棹をさすように、かえって果報を得られないということ。
- ④ 理想的な振る舞いをしたうえで果報を願わなければ、流れに棹をさすように、来るべき果報も失ってしまうということ。
- ⑤ 良い振る舞いをしたうえで果報を待っていれば、流れに棹をさすように、スムーズに果報も訪れるだろうということ。

問七 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

- ① 親はせめて自分が元気なうちは、我が子が将来の心配をしなくていいように出来るかぎり甘やかすべきである。
- ② 親が我が子かわいさのあまり、子の人生に口出しをしすぎると、かえって子が反発し、素行が悪くなることもある。
- ③ 親が子に対してきちんと教え諭すということをしないと、子は人生を甘く見て、墮落の一途をたどることになる。
- ④ 宮仕えをするにあたっては、自らの振る舞いに気をつけると同時に、神仏を熱心に信じる心を失ってはいけない。
- ⑤ 親は子のことになると考えの浅い行動をしがちなので、子は宮仕えをして、しっかりした振る舞いを学ぶのがよい。

問八 『十訓抄』と同じジャンルの作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 古今和歌集
- ② 日本書紀
- ③ 平家物語
- ④ 更級日記
- ⑤ 宇治拾遺物語

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

学生の時に将棋を指していましたが、アマチュア強豪には I をしばしば見かけました。私が所属した大学の将棋部でも、一般の会話では聞いたことがないような辛辣な言葉が飛び交っていて、私もたびたびそういった辛辣な罵倒の対象となり、悔しい思いをしなかったと言えは嘘になりますが、私はそんな将棋指したちのことが、結構好きです。

将棋の世界は「優しい嘘」が通用しない、^A どうか、有意義に機能しない場所です。詰みがある局面では、誰がどう言ってもそれは詰んでいるのであり、それを読めなかった人は弱いのです。それ以上でもそれ以下でもない。将棋に勝った人が負けた人に向かつて「指そうと思ったら、隣のコマに指が当たって動いて、それがたまたま好手になりました」とか、「全部、良い手を指されたのに、私の勝ちになっていて、一体どうなってるんでしょね」とか、歯の浮くようなことを言ってみても、嘘がバレバレで軽蔑されるだけです。たとえいくら辛くとも、本当のことを言わなければ、負けた原因がわからず、相手も自分も将棋が強くない。だから将棋指しは知らず知らずのうちに、本当のことを言ってしまう癖がついています。

しかし、そういった将棋指しの習い癖は、^B 外の世界に出ると一定の頻度で問題を引き起こします。それは私の人生において時に起こってきたことであり、一部の将棋部の先輩後輩諸氏を見ていると容易に想像できることです。本当のことを言い過ぎると、ある種の社会不適合者という II を押されてしまうのです。それは、この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるし、一面的な「本当」を主張するだけでは解決しない問題も、現実にはとても多く存在しているからです。

中国の有名な故事成語に「鹿を指して馬と為す」という言葉があります。これは秦の始皇帝亡き後、権勢を誇った宦官の趙高ちやうこうに関する逸話です。趙高は幼き二世皇帝の胡亥こがいを III にして帝国の実権を握っていましたが、ある時胡亥に「珍しい馬がおります」と鹿を献上しました。胡亥が「これは鹿ではないか」と問うと、趙高は「いいえ、これは珍しい馬でございます。皆はどう思うか？」と周囲の家臣に尋ねました。これは群臣の自分への忠誠心を試すために行った趙高の策略で、

IV

だと答えた家臣は、軒並み捕らえられて処刑されたそうです。一説には、これが馬鹿の語源となったとも言われてお

り、鹿を馬というのはバカなことというふうにも、そんな状況がバカげているというふうにも解釈できる話です。

現代ではさすがに処刑されることはないですが、本当のことを言うことで、自分が属する組織が困ったことになったり、関連する人との人間関係が悪くなったり、あるいは自分の評価が下がったりというような状況は、古今東西ごくごく普通に発生します。だから、多くの人がそのバカな状況をどうにかこうにかやり過ごしています。言う必要のない本当のことは黙っていたり、わからないとか、知らないことにしたり、あるいは開き直って嘘を言うこともあるでしょう。ある国の総理大臣は国会で118回も嘘の答弁を行い、その理由を「秘書が本当のことを知らせなかったから」と説明しました。私はこの総理大臣が少なくとも119回の嘘をついたのではないかと思いますが、本当のことが言えない、もしくはとても言いにくい状況というものは、このように現実には頻繁に起こります。

^B「嘘をついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。幼稚園でも、小学校でも、中学校でも、そして大人になっても。しかし、この世は「嘘」、少なくとも「本当でないこと」に満ち溢あふれています。その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もあるでしょうが、必ずしもそういうものばかりでもありません。灰谷健次郎はいたにけんじろうさんの『少女の器』という小説に、主人公の緋かすりと上野くんという少年のこんな会話が出てきますが、私はこのくだりをとても印象深く覚えています。

「その章子さんという人ははじめ、おまえのおやじが好きやってんやろ。結婚してもらわれへんので、よその男のところへ行ったと。そやろ」

そういう復習の仕方に緋はとまどったが、一応、

「そう」

とこたえておく。

「そうしたけど、うじうじするから、よう考えたら、やっぱりおまえのおやじが好きやったというわけや。なんとかならんかというてしっぽ巻いて帰ってくる人間にカッコええのがおるか。前と違う章子さんだったとおまえいうけど、そんなん

当たり前や」

惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ、と少年はいった。

「頭のええ人間ちゅうのはやっぱり冷たいワ。ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ。

おまえ、なんで、おれを睨むねん」

緋は唇をかんでいる。

世の中には、それが本当であっても言わなくていいこと、本当のことを言うことで事態が良くなるらないこと、そんなこともたくさんあります。「優しい嘘」が人としての生きる知恵であり、必要悪として存在していることは紛れもない事実です。そこで「いや、だってあの V、汚いやんか」と言ってしまうのが、将棋指しだったりするのですが、「優しい嘘」というものが、本当に悪いことなのか、どこまでが許されるのか、私にはよくわかりません。「ア」

将棋の世界で「優しい嘘」が有効に機能しないのは、結果が短期間に出る、良し悪しが明白な世界だからだと思います。勝ちに導く手が好手で、負けにになってしまう手は悪手です。しかし、現実の世界はそんな単純にはできていない。ドブに落ちて泥にまみれる経験をすることが、その後の人生の成功につながっていくようなことはよくある話です。ドブに落ちたら負け、ではないのです。だから、ドブに落ちたことを責め立てるより、その傷を癒し、心も体も回復させていく「優しい嘘」の方が長期的な、好手、となることだってあるのです。「イ」

また、嘘はいけないと言っても、鹿を鹿と言えば首をはねられることがわかっている状況で「鹿！」と言うのは、実際鹿なこではないのかと、思わぬこともありませぬ。映画やドラマであれば、そういう鹿鹿な正直者を助けてくれるヒーローが出てきたり、その人がヒーローに変身できたりするものですが、現実にはそんなことは起こりませぬ。「ウ」

では一体、なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？ その本当の問題は、安易に嘘をつく生き方、その生きる姿勢にあるのではないかと、私は思います。生きていると、いろんな苦しいことがやってきます。志望校に入

るために勉強することや試合に勝つためのスポーツの練習もそうでしょう。与えられたノルマをこなすことや、何かの仕事を作成し遂げることなど、苦しい思いをしなければ達成できないことが多くあります。もちろん中には、そうやって頑張ってみても越えられない困難もあるでしょう。結果が失敗に終わること自体は決して悪いことだと思いませんが、私がここで問題にしているのは、そういった困難や苦しさや真剣に向き合わず、安易に逃げてしまうことです。それは心理的な癖のようなものになり、人として成長するための大切な基盤を蝕んでいきます。〔H〕

嘘をつくという行為は、そういう困難や苦しさから逃げてしまうことと根が同じだと思います。嘘をつけば、目の前の問題がとりあえずその場では解決します。でもそんなやり方が当たり前になってしまうと、人はいざという時に頑張れなくなってしまう。いつも何かを誤魔化して生きること慣れてしまうのです。そういった精神の在り方が、その人の人生全体を何か偽物にしてしまう。嘘にはそういう魔力があり、そこに墮してしまふことを戒めるために、聖書も、コーランも、先生も、親も、口をそろえて「嘘をついてはいけない」と言うのです。〔オ〕

嘘や不善とまったく無縁のヒーローのように常に格好よく生きることが、生身の人間にはなかなか難しいことです。でも、「は〜い、趙高さま、それは **VI** でございます」と魂を売ったような生き方をするのも、やっぱり違う。私たちはそのはざままで、ちよつと格好悪く、でも頑張つて生きて行く。そんな生き方しか残されていないのではないか、そんなふうに思ったりもするのです。常に理想を追い求めていけば良いというほど世界は単純ではないけれど、それは理想を忘れてよいということとは、やはり違うのです。

だから、いつも鹿を鹿と言う必要はないのかもしれないけれど、もしかたえば、自分が馬の分類の専門家だったら……、そう、もしそうなら、やはり「鹿！」と言おうと思うのです。人生にはそういうことが必要なことはあるし、**VII** 鹿になつても悔いがない、と思えるようなものを持ってない人生は、なんだかつまらない。私は **VIII**、そう思うのです。

（中屋敷均『わからない世界と向き合うために』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある）

〔注〕 *宦官………皇后や妃きさきなどが住む後宮に仕えた去勢男子。君主の側近として重用される者も多かった。

*『少女の器』……両親が離婚し、母親と二人暮らしの少女・絢が、別居する父やボーイフレンドの上野くんといった様々な人たちに囲まれ成長する姿を描いた物語。なお、引用文中の「そういう復習の仕方」は、ここでは「そのようなまとめかた／振り返りかた」の意。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

物言えば唇寒し秋の風とは、蓋しけだ名言です。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 空欄 I に入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 相手に因果を含めようとするとする人
② 歯きぬに衣着せぬ物言いをする人
③ お茶を濁した説明をする人
④ 木で鼻を括くるような返しをする人
⑤ 眉に唾を塗って対応する人

問三 傍線部 A 「将棋の世界は「優しい嘘」が通用しない」のはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 良い選択であるか悪い選択であるかが明白で、しかもその結果がすぐに示されるような世界だから。
- ② 相手を傷つけないように嘘をつくことが、かえって相手のプライドを踏みにじることになる世界だから。
- ③ 一般社会で求められるような気配りが、まったくできない人々ばかりが寄り集まっている世界だから。
- ④ たとえ開き直って嘘を言ったとしても、すぐに理路整然と論破されてしまうような世界だから。
- ⑤ 強くなるためには、いくら辛くても心を鬼にして相手を批判し続けなければならない世界だから。

28

問四

空欄

II

・

III

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(同一記号の反復使用は不可)

- ① 駄目
- ② 奴婢めいひ
- ③ 横車
- ④ 傀儡かいらい
- ⑤ 烙印らくいん
- ⑥ 手綱

II 29

III 30

問五

空欄

IV

・

V

・

VI

・

VII

を、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

31

- ① IV 馬 V 鹿 VI 鹿 VII 鹿
- ② IV 馬 V 犬 VI 馬 VII 犬
- ③ IV 馬 V 鹿 VI 鹿 VII 馬
- ④ IV 鹿 V 鹿 VI 馬 VII 犬
- ⑤ IV 鹿 V 犬 VI 鹿 VII 馬
- ⑥ IV 鹿 V 犬 VI 馬 VII 鹿

に入る語の組み合わせとして問題文の内容から最も適当なもの

問六

傍線部B「嘘をついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます」とあるが、それはなぜか。筆者が考える理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

32

- ① 自分を守るための嘘だったとしても結局のところ嘘は嘘であり、他人に迷惑をかけてしまう可能性がある以上、老幼を問わず禁止されるべきものだから。
- ② 鹿を鹿と言えば首をはねられることがわかっているにもかかわらず、それは鹿だとしっかりと伝えられる人間こそが、いつの世でも社会に求められているから。
- ③ 目の前の問題を嘘をつくことでやり過ごすことに慣れてしまうと、その人が自ら人生を切り開いていく力も次第に失われていってしまうから。
- ④ 一度嘘をつくことさらに嘘を重ねていかなければならなくなるが、それは結果的に自分の人生を嘘の塊のようなものにしてしまうことになるから。
- ⑤ 嘘をつくことが癖になり、人が人として成長するための基盤さえもが蝕まれてしまうと、ついには人間社会で生き続けることが難しくなってしまうから。

問七 傍線部C「このくだり」が筆者に与えた影響についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

33

① 「なんとかならへんかというてしつぽ巻いて帰ってくる人間にカツコええのがおるか」という上野くんの質問は、今日の負けが明日の勝ちにつながることもある現実世界では、失敗がいつも悪手とは限らないことを筆者に気付かせる契機となっている。

② 「惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ」という上野くんのいらだちと失望とが入り混じった思いに、筆者は「本当でないこと」が満ち溢れたこの世で人を好きになるということの大変さと、またそれゆえの尊さを改めて確認させられている。

③ 「頭のええ人間ちゅうのはやっぱり冷たいワ」という上野くんの絢に対する皮肉に満ちた指摘は、頭が良いせいと言わなくていいことも言ってしまう人間が現実の社会でいかに白い目で見られるものであるかを、筆者に痛感させるものとなっている。

④ 「ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ」という上野くんの言葉は、失敗した人を責め立てても実際には事態が改善しないことや、そのような場面でこそ「優しい嘘」が有用である可能性を筆者に思い起こさせている。

⑤ 「おまえ、なんで、おれを睨むねん」という上野くんの言葉に唇をかむことしかできない絢の姿は、せっかく「優しい嘘」をついても、その真意が相手に気づかれなければ意味をなさないという厳しい現実を筆者に実感させるものとなっている。

問八 空欄

Ⅷ

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

34

- ① 不如意な胡亥に同情しつつ
- ② もちろん嘘の専門家ではありませんが
- ③ 社会不適合者たりえなかった悔恨から
- ④ ヒーローになり損ねたがゆえに
- ⑤ 将棋指しの端くれとして

問九

問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるが、将棋部の一部の先輩後輩諸氏はそのようなすねに傷を持つ相手を前になると、将棋指しの習い癖で徹底的に批判せずにはいられない。
- ② ある国の総理大臣は国会で数多くの嘘の答弁を行ったが、秘書との人間関係が悪化していたことを踏まえると、本当のことが言えなかった、もしくはとても言いにくかったのも仕方がなかったともいえる。
- ③ 嘘をつくことは悪いことかもしれないが、現実的には「優しい嘘」が失敗した者の傷を癒して心身を回復させる役割を担うようなケースもあり、それが人としての生きる知恵であることは疑いえない。
- ④ 嘘には、人が生きていく上で避けることができないはずの困難や苦しさを、本来とはかけ離れた楽しみに満ちたものに改変してしまう魔力があり、社会の指導的立場にある人々に長らく警戒されてきた。
- ⑤ 権力者にしたがうだけの人生も嫌だが、ヒーローのように格好よく戦い続けることも難しいことを考えると、私たちは自らを縛る理想をいったん横に置いて、新たな生き方を模索していく必要がある。

2025 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 4 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 24 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 35 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「恋人がいなければ幸せではない」という発想は、恋愛至上主義的でセクシュアリティの多様性に無頓着であり、乱暴なものである」という考え方は、かつてよりは広く理解されるようになってきている。他方で、「恋人がいなくても充実した人生を生きられる」と言われる時、そこで念頭に置かれる充実した人生には、友人など、親しく付き合える相手が誰かしら存在することが暗に前提^Aされていないだろうか。〔ア〕

もちろん、「友達がいなくてもよい」「無理に友達を作らなくともよい」といったことが言われる場合はある。だがそれはしばしば、既存の集団の価値観や、それに同調せよという圧力に無理に合わせなくてよいということであり、一生を通じて個人的な親しみを抱き合ったり心を許してコミュニケーションできるような相手が一人もいなくてもかまわない、ということでは必ずしもないのである。むしろ、そのような親しい相手が存在するということは、生きていくうえで基礎的なニーズに近いのではないか。〔イ〕

だとすると、ここで友達というものに関する原理的な困難とでも言うべきものを指摘できる。生きていくうえで友達はいてほしいものだが、にもかかわらず、誰も友達ができないという可能性は存在し続ける。なぜなら友達関係が成立するかどうかは、根本的にはお互いが相手を好ましく思えるかという、

I しよのない点に依存するためである。〔ウ〕

人とのつながりが衣食住に匹敵^{ひつ}するほど重要なものであるならば、万人にそれを確保することはフクシや公衆衛生の課題となるだろう（実際、孤独・孤立の問題は政策的対策の対象となっている）。そして、人との出会いやコミュニケーションの機会を提供するなどの形で、個人に対して友達を作れる蓋然性を高める働きかけを行うことは可能である。だが、衣食住と比較したときに、他者との親しいつながりは、それそのものを提供することができないという特徴がある。つまり、人と親しくなる機会を提供することはできるが「親しい相手」そのものを提供することはできないか、少なくとも非常に難しいように思われるのである。〔エ〕

ここで述べているのは、社交性があって魅力的な人には無縁な問題では必ずしもない。どんなに友達が多い人であっても、転職や転居、災害などをきっかけにそれまでと全く違うコミュニティに身を置いたことで誰とも **II** が合わず孤立すること **【オ】** はありうる。

友達は、生きていくうえで重要であるにもかかわらず、意図的に得たり、外的な介入・操作によって直接与えられてきたりすることはできないようなものである。したがって、友達を得られない可能性は(程度差はあれ)原理的に誰にでも存在する。この困難を以下で「友達問題」と呼ぶことにする。

「友達問題」を踏まえると、技術によって誰もが友達を得られるようにできるならばそうすべきではないか、という発想が生じうる。具体的には **B** コンパニオンロボットやAIのような存在が誰しにもあてがわれ、相談相手や理解者の役割を果たしてくれるといった社会像が構想できる。人間どうしの間に自然と生じる自発的な好意に任せていては、そこからあぶれて孤立する人が生じる可能性を原理的に防ぐことができない。それに対して上記の技術的解決はひとつの考慮すべき策であるように思える。

また、「人間以外の存在に友達のような親しみを覚える」というケースの典型例として、アニメ・漫画・ゲーム等の特定のキャラクターを愛好するというものがある。筆者はこれまで、アイドルやキャラクター等を「推すこと」をめぐる倫理問題や、「推すこと」が人生において持ちうる意味・意義について論じてきた。「推すこと」は、基本的には、実生活の中の人間関係——例えば家族、友人、学校・職場の人間関係等——の網の目からは離れたところにいる存在に対して、強い親しみ・愛着を持つことを含む。すると、「推すこと」と「実生活における人間関係において、近しい相手に対して親しみや愛着を抱くこと」とはどのような関係にあるのか(例えば、前者は後者の代替であるとか、両者は別個の意義を持つものであるなど)と問うことができる。

実生活において知り合える相手の誰にも親しみや愛着を持たず、心を開けないということもありうる。

i すると、「推し」は親しい人間関係の代替になりうると思う人もいるかもしれない。

- ii また、そのような存在が心の支えとなつて、実生活の人間関係における辛さを乗り切るといったこともあるだろう。
- iii これは上で「友達問題」について述べた通りである。
- iv だが、そのような状況であつても、実生活の中で関わりのないアイドルや、物語の中のキャラクターといった相手に対し、親しみや愛着を抱くということはありうる。

他方で、そのような発想に違和感や反感を覚える人もいるだろう。

以下では「友達問題」の困難の内実と、それに対して「推す」ということがどのような意味・意義を持ちうるのかを、よりシヨウサイに検討したい。^b

「友達問題」について検討するにあたり、社会学者のヤン・エルスターによつて論じられた「本質的に副産物である状態」という概念に注目したい。エルスターが「本質的に副産物である状態」と呼ぶのは、他の目的のために行われた行為の副産物としてのみ生じ、意図的に生じさせることができないような心的および社会的状態のことである。エルスターが例として挙げているのは、不眠の時に意志をもつて寝ようとすると却^{かえ}つて寝られないとか、Ⅲとか、「私を愛してくれ！」と命令する（相手が自由意思によつて愛してくれるのではなく、命令されたから愛してくれたというのでは意味がない）といったものである。

友情や友達に関しては「意図的な努力によつて」友達を作る」という言い方がされることが一般的であるものの、実際のところは「私を愛してくれ！」の例と同様に、「本質的に副産物である状態」に相当するといえるだろう。

友情のような親しい人間関係は、何らかの活動の副産物としてできることがしばしばある。たとえば、スポーツの集団^cキョウギの部活動で、勝利を目指して協力して頑張った結果、チームメイトとはよき友となつた、といった場合である。友達ができることを期待して部活動に入るといった行動も一般的なものだろう。では、友人関係を作ることそれ自体を目的とした活動は可能

であろうか。マッチングアプリのような手段を介して、友人を作りたいと思っている人同士が知り合い、継続的に会話をしたり一緒に出掛けたりするといった仕方に関係を作っていくことは可能であろう。だがその場合でも、付き合いは続けているが打ち解けた感情を抱くことはできないといった事態は大いに生じうる。そのような場合は、おそらく自然とやり取りが途絶えるだろう。つまり根本的には、やり取りの副産物として、相互に親しい感情が湧いてくるに任せるしかない面があるのだ。前述した友達問題の困難の核は、まさにこの点にある。

よりゲンミツに述べれば、友達関係が成立するかどうかは複数の者の自発的な感情に依存する。つまり他者から自分への好意と、自分から他者への好意である。そしていずれも、意図的な介入・操作によって生じさせることには即さない「本質的に副産物である状態」だと考えられるのである。

友情の「本質的に副産物である」性質を考慮すれば、技術によって友達を万人にあてがうということが果たして本当に可能なのか、疑義が生じてくる。友人になるために造られたロボットやAIが、特定の人に好意を向けるように設計されている以上、それが自発的好意であるといえるのかという点は当然問われるが、それ以前に、そもそも友人としてあてがわれたロボット・AIに対してこちらが好意を持つるとは限らないという問題もある。

実際のところ、「推し」にも同様のことがいえる。近年見られる「推し活」ブームに対し、漠然と疑わしきを感じる人は少なくないであろうし、それは実際に熱心なファン活動に従事している人であっても(むしろ、熱心な人であればこそ)そうであろう。その疑念には、例えばロウヒoをあおるような商法への懸念等も含まれるだろうが、そもそも「何かを好きになって応援する」と楽しいので、何かを好きになって応援する活動をしよう」といった考え方に、「本質的に副産物である状態」であるはずのものを目的化するような、IV した態度が含まれているからではないか。何かが人気だからとか、周りの人が推しているからといって、それだけを理由に強い好意を抱き続けられるものではない——「推せる」ものではない——のである。

(筒井晴香つついはるか『「友達問題」と「推すこと」——好意の御しがたさ』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *セクシュアリティ……………性と欲望にかかわる人間の活動全般を指す言葉。

*コンパニオンロボット……………AI（人工知能）機能を備えた、ペットや家族などのような役割を果たすロボット。

*マッチングアプリ……………インターネット上で個人間の出会いと交流の場を提供しているサービス。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

衣食住が足りていても心許せる相手がいない状態が続いているというのは、心身の健康によい状態ではないだろう。

- ① ア
- ② イ
- ③ ウ
- ④ エ
- ⑤ オ

問一 傍線部 a、e と同一の漢字を使うものを、次の各群の ①～⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a b c d e

a フクシ

- ⑤ ヨウフクを着る
 ④ 道路のフクイン
 ③ ユウフクな家庭
 ② 病気がカイフクした
 ① フクシキ呼吸

b ショウサイ

- ⑤ ショウボウ自動車
 ④ ガツショウコンクール
 ③ 住所フショウ
 ② ショウコウに出世する
 ① ザイムショウの政策

c キョウギ

- ⑤ 他社とキョウゴウする
 ④ キョウシヨウ住宅
 ③ キョウカイ線を越える
 ② キョウコクを渡る橋
 ① キョウハク状が届く

d ゲンミツ

- ⑤ ゲンガッキを奏でる
 ④ ゲンリュウをさかのぼる
 ③ ゲンゴウが変わる
 ② ゲンソウ的な風景
 ① ゲンカクな対応

e ロウヒ

- ⑤ ルロウの民
 ④ ロウドウに従事する
 ③ 人をグロウするな
 ② ロウカを走るな
 ① ロウスイを修理する

問三 傍線部A「前提」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 恋人という存在を暗に軽視し、それよりも友人などとの関係を重視するということ。
- ② 恋人がいるということ、友人などがいるということは別の次元の話であるということ。
- ③ 恋人とは別に、友人などがいることが自明のものとされているということ。
- ④ 恋人だからといって、友人などよりも濃密な関係になるとは限らないということ。
- ⑤ 恋人の存在と同じくらい、友人などといった存在も重要だということ。

問四

空欄

I

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

8

- ① イメージ
- ② アクセス
- ③ チェンジ
- ④ デフォルメ
- ⑤ コントロール

問五

空欄

II

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

9

- ① 虫
- ② 馬
- ③ 鳥
- ④ 牛
- ⑤ 猫

問六 傍線部B「コンパニオンロボットやAIのような存在」が「友達問題」の解決に役立つのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

10

① そうした存在は万人の好みに合うように設計されているので、自分とは合わないとか、嫌いに思う人はほとんどないから。

② そうした存在は自発的に人間どうしの関係を築けない人にとって、新しい友達を得るまでの間、代替として機能することが期待されるから。

③ そうした存在は自分に従順であり続けるので、相互の不信感やズレは生じようがなく、人間どうしの関係に傷ついた人にとつても救いになるから。

④ そうした存在は自分にとつて好ましい存在になるように設計されているので、自分とは合わない、という事態は生じにくいから。

⑤ そうした存在は多くの人に行き渡らせることができるので、人間どうしの関係からあぶれて、孤立する人が生じる可能性を減らすことができるから。

問七 問題文中のi～ivの文をもとの順番に並び替えたものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。

11

① i ↓ ii ↓ iv ↓ iii

② i ↓ iii ↓ ii ↓ iv

③ ii ↓ i ↓ iii ↓ iv

④ ii ↓ iii ↓ iv ↓ i

⑤ iii ↓ ii ↓ i ↓ iv

⑥ iii ↓ iv ↓ ii ↓ i

⑦ iv ↓ i ↓ iii ↓ ii

⑧ iv ↓ ii ↓ i ↓ iii

問八 空欄 Ⅲ に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

12

- ① 相手からの見返りを期待してプレゼントを贈る
- ② 経済危機などのリスクが生じることを恐れて資産を分散させる
- ③ 失敗することを注意して行動するとむしろ本当に失敗してしまう
- ④ ある言葉のことを考えてはいけなと言われた時点でもう考えてしまっている
- ⑤ もともと高血圧の治療のために開発された薬品がガンの予防にも効果があることが分かった

問九 空欄 Ⅳ に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① 抑制
- ② 転倒
- ③ 錯綜
- ④ 後退
- ⑤ 並行

問十 問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ(マークする選択肢番号の順序は問わない)。

14

15

- ① 政策的対策として、人との出会いやコミュニケーションの機会を設けることはできるとしても、友達そのものを提供するとは困難だ。
- ② 社交性があつて魅力的な人においても、友達を作ることができないという問題は無縁ではなく、外的な介入は時に必要となる。
- ③ 友達問題におけるコンパニオロボットやAIの導入は、実生活における人間関係に悪影響を及ぼしかねないが、次善の策としてその導入も検討すべきである。
- ④ 友達を作るために部活動に入るといふ行動は、友達を作ることそれ自体を目的とした行動であり、部活動のほうは副産物と化している。
- ⑤ 友達とは他者と自分とのやりとりの結果生じる副産物であるので、マッチングアプリで友達作りを目指したとしても、うまくいくとは限らない。
- ⑥ コンパニオロボットやAIが副産物でしかないのと同じように、「推すこと」における「推し」も副産物のほうが主となっているので、人は満足を得られない。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

《清水寺を舞台に、そこで出会った人々が様々な問答を繰り広げる。》

梟彫りたる石のあたりにて、「梟は化物になる」と言へる人ありければ、少人問ふて曰く、「化物ぞ、奇特不思議ぞといへる事はあることや、なき事か」など言ふ。

老人聞いて、「よき不審にてこそ候へ、あると申せば鱒の頭も仏になるなどと思ひて、木の切れ、石の欠けも、尊みすぎて愚かにあさまし。又なきと申せば、神もなく仏もなく天道もなしなどと言ひ、狭して物事に破れ気を出され候ふ。有るにても候はず、無きにても候はずと申せば、中ぶらりといへるものにて訳も聞こえず。申し分けんとすればいと難し。さりながらやさしく少人の御尋ね候ふを、少しは御物語申すべし。

万の事、みな不思議奇特なる故に、わきて奇特とも、不思議ともいふべき事なし。見馴れたる事は不思議になきと思ひ、見馴れぬ事あれば奇特不思議と思ふ事にて候ふ。其子細は鳥の空飛ぶも不思議にて候はずや。幼きより見馴れたる故に奇特とも思はぬにてこそ候へ。さりとは希代不思議の第一なり。魚の水に住むも、草木の花の色々染め出だすも、何者かありて斯様に才工をいたすとも知らぬはみな不思議也。これから見れば天地の内に、誰がするとも知らぬ不思議は、何程も有るべしと心を据へて、其上に我が心に心得られぬ事あらば見馴れ、聞き馴れぬにてこそあれ。理を思ひ当たりたらば、不思議にても奇特にても、あるまじきと思ふべし。石が物を言ひ、石が空を飛ぶとも有るまじき事と驚くべからず。これは何故にかくの如くあるぞと知りたる人に問いたらんは、疑ひ晴れて行くべし。

その他狐、狸の仕業までも、よく理を知りぬれば驚く事さらになし。奇特不思議は、目馴れぬ物と、聞き馴れぬ事なりと思へば、奇特も不思議もなし。神の事も仏の事も、奇特なる事は誠の道にあらず。奇特なきがみな奇特と思ふべし。何事も惑はずしてしかも破らぬはなし」。

〔注〕 才工……「細工」と同じ。

（『清水物語』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変している。）

問一 傍線部A「物事に破れ気を出され候ふ」とあるが、そのような態度になる理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① 視野が狭くなり、正常な判断ができなくなってしまうから。
- ② この世の中に救いはないと絶望し、自暴自棄になってしまうから。
- ③ 住んでいる世の中を狭く感じ、外の世界を求めてしまうから。
- ④ 天罰を受けることはないという侮り、自制心がなくなってしまうから。
- ⑤ 何かに失敗したことを他のもののせいにして、ふてくされてしまうから。

問二 傍線部a～fのうち、意志の「べし」はどれか。次の①～⑥のうちから適当なものを一つ選べ。

17

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d
- ⑤ e
- ⑥ f

問三 傍線部 B 「わきて」、D 「さりとは」の、問題文中における意味として最も適当なものを、次の各群の ① ～ ⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

B

D

B		D	
わきて		さりとは	
⑤	④	③	②
わきあがって	分別して	とりたてて	理解して
⑤	④	③	②
それからも	そのようなわけで	そのようにしても	そうはいつても
⑤	④	③	②
それはそれとして	それはそれとして	それはそれとして	それはそれとして

問四 傍線部 C 「鳥の空飛ぶも不思議にて候はずや」の解釈として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤のうちから一つ選べ。

- ① 鳥が空を飛ぶことも、不思議なことではない。
- ② 鳥が空を飛ぶことも、不思議なことだろうか。
- ③ 鳥が空を飛ぶことも、不思議なことではないだろうか。
- ④ 鳥が空を飛ぶことも、不思議なことだろうか、いや不思議なことではない。
- ⑤ 鳥が空を飛ぶことも、不思議なことではないだろうか、いや不思議なことだ。

問五 傍線部E「理」の問題文中における意味として適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

21

- ① 理詰めの議論のこと。
- ② 物事を理解したり認知したりすること。
- ③ 物事の筋道や道理のこと。
- ④ 人間の持つ理性や知性のこと。
- ⑤ 科学的な理論や定理のこと。

問六 傍線部F「奇特なきがみな奇特と思ふべし」の理由として適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 世の中に怪奇現象が起こらないということはないから。
- ② 世の中に理不尽なことが起こらないことがおかしいから。
- ③ 世の中に説明のつかない不思議なことなど一つもないから。
- ④ 世の中に優れた人がいないということが不思議なことだから。
- ⑤ 世の中は本質的に不思議なことで溢れているから。

問七 問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、選択肢の順序は問わない。

23

24

- ① この世の怪奇現象は、すべて人が細工したものである。
- ② 水に魚が住むのも、花が様々な色を見せるのも、不思議なことである。
- ③ 石が言葉を話し、空を飛ぶということは、理屈を知っていれば起こり得ないことである。
- ④ 不思議なものとは、およそ見慣れないもの、聞き慣れないものである。
- ⑤ 神仏の道においては、不思議なことが起こるのは日常茶飯事である。
- ⑥ 狐と狸の仕業は、理屈の知れない驚かされるものばかりである。

問八 『清水物語』は、寛永十五年（一六三八）に刊行された作品である。これ以降に出された作品として適当なものを、①～⑤のうちから一つ選べ。

25

- ① 源氏物語
- ② 西山物語
- ③ 平家物語
- ④ 狭衣物語
- ⑤ とりかへばや物語

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

なぜ「顔と顔」の対面コミュニケーションが必要なのか。それは生身の人間どうしが至近距離で向き合わなければおたがいを「体感」できないからである。「体感」というのは、おおげさにいえば全人的接触ということである。現実生きて、呼吸している人間にはまずその身体があり、握手すれば体温を感じることができる。わたしたちがほんとうに深いコミュニケーションをかわすことができるのは、そういう「体感」をともなった現実の人間どうしの対面の場だけなのだ。

そうでなくても恋人どうしは、ただいっしょにいるだけでたのしい。デートがおわって、さよなら、といったとたんにまた会いたくなる。友人どうし、いちど会いたいなあ、といって歓談したり食事をもにしたくなるのも生きた人間の「体感」をもとめているからだ。

例えば、相手の服装、歩き方、一挙一動、表情、女性のばあいだったら持ち物、アクセサリ、化粧のかすかな香料のにおいにいたるまで、そのひとをとりまく「雰囲気」がまずわたしたちの触覚器官にとびこんでくる。「ことば」によるコミュニケーション以上に強烈なのは人間の存在そのものが発する「実在感」なのである。

学校の授業も「実在感」があるからだいじなのだ。科目が数学であろうと英語であろうと、学習欲のある学生なら教科書や参考書を読めばたいのことは学習できる。それにもかかわらず、きめられた時間に教室で席につくのは文字どおり目と鼻の先で講義なさっている先生の肉声にふれ、黒板に書かれる文字を目で追うことによってはじめて生き生きとした学習が体験できるからである。前後左右にいる級友たちの呼吸が感じられ、かれらと共通経験をわかちあうことができるからである。ノートや辞書をめくる紙ずれの音、教室のなかのあの独特のにおい。そうした全感覚を動員した「体感」があるからこそ学校という場での教育がだいじなのだ。

実務の世界でも、ふだんは電話ですむような用事でも、相手方としっかり商談を煮つめ、数千万円におよぶ交渉や契約、ということになる、テーブルをはさんでなんべんも「面談」することが必要になってくる。めでたく商談が成立すれば、どちらか

が席を設け、一夕を談笑のうちにすごす、といったこともあるだろう。話題はささいな世間話。あとはカラオケといった宴席であつても、一種の皮膚感覚のようなものが相互に刺激されて「交際圏」を強化してくれるのである。

そればかりではない。^B「体感」によるコミュニケーションはいろんな解釈も可能にしてくれる。なごやかな会話をたのしんでいるようにみえても、相手が腕時計に目をむけているのは、そろそろ切り上げたい、ということの意味している。俗に「目は口ほどにものをいい」ともいう。ゴフマンの有名な「顔のはたらき」もこのような「ことば」にとらわれないコミュニケーションについての考察であつた。歌舞伎の名セリフに「互いに見交わす顔と顔……おお、読めた」というのがあつたが、ひとが「読む」のは「ことば」だけではない。「顔」をはじめ、さまざま「しぐさ」も読み取る能力をもっているのである。

それに「ことば」が発せられていても、そのことばを体感的にうけとることができないこともある。たとえば不祥事があると、当事者が「このたびは多大のご迷惑をかけ……」と定型文のお詫びのことばをのべ、「再発防止に努力いたします」といつて最敬礼する情景にはテレビでよくおめにかかるが、あれはおおむね用意された文章をただ読み上げているだけ。だから、あんまり反省・謝罪の「気持ち」が伝わってこない。そういうとき、謝罪されるほうは I がないといつて不満をしめす。おおげさに土下座されても体感的にはかえつて不愉快だ。ちゃんと謝っているじゃありませんか、といつても無駄である。

「II 鮮すなきかな仁」ともいう。コミュニケーションというものはやたらにおしゃべりをするからいい、というものではなさそうなのである。

「体感」はだいいじだが、そんなにしょっちゅう生きた人間どうしが「顔と顔」で向き合っているわけではない。わたしたちのコミュニケーションはおおむね「ことば」で成り立っている。ここで「言語」についてもろろの学説のおさらいをするつもりは毛頭ないが、「ことば」をつかう、というのは簡単なようで、じつはたいへんにむずかしい。というのは、世間にわかつてもらうためにはかなり訓練が必要だからだ。

このごろは、あまり区別する人がいなくなつたが、日本語には口語と文語というふたつの表現方法がある。いうまでもなく、口語とはふだんの会話でつかつていることば。それに対して文語といふのは、あらたまつて「文章」にした「書かれたことば」

のこと。たとえば口語で「きのうはどうも」というところを文語では「昨日は失礼いたしました」というたぐい。口語はしたしみやすいが、文語はおおむね硬くなる。硬いだけでなくむずかしくて、めんどうになる。ばあいによってはヨソヨソしくなる。前項でわたしは不祥事のお詫びの「定型」にふれたが、あの定型文の「多大なご迷惑」というのは文語である。ふつうの日常会話では「多大の」などとはいわない。「たいへんな」という。その「たいへん」を「多大」という文語体の文字を読み上げるから、ていねいなようで、無愛想なのである。

こうした文語体や漢字の濫用について、わたしは旧著『なんのための日本語』でくわしく論じたから、あまりくりかえしたくない。だが、わたしなどがいくらいつても文語文をつかいたがるひとがすくなくない。おまけにワープロ・ソフトには書簡文の定型がたくさんのついで「謹啓秋冷の候」といったような文書がキー操作ひとつで即座にでてくるようになっていいる。ぜんぶ漢字だらけで、ふだんの口語すなわち「はなしことば」とはまったく無縁の文字列である。オマジナイとおもえばそれでよからうが、こんなもの、べつだんコミュニケーションの手段ではあるまい。

「ことば」によるコミュニケーションでいちばんだいじな心得は、このような文語文を使用しないことである。ふつうの口語体でみずからを表現することである。もちろん口語体といっても、いまこうして書いている「Ⅲ ことば」は「である」調という表記法であって、「Ⅳ ことば」とはちがう。ほんとうの「Ⅴ ことば」で「そうじゃないかな」というべきところを「Ⅵ ことば」では「そうではあるまいか」になる。「会話ことば」に近づけようとして、「そうではないでしょうか」と「です・ます」調にしてみてもやっぱり「Ⅶ ことば」だ。こればかりはしかたがない。「ことば」はほんとうにむずかしい。

しかし、わたしたちの言語生活というのは、じつのところ、たいへんに単純なもので、日本語はかぎられた語彙(単語)で間に合っている。『広辞苑』には二十万以上の語彙が収録されているが、日常会話でそんなにたくさんの語彙のなかからことばをえらんではないわけではない。いくつもの研究によれば、その数はせいぜい数百。それらを組み合わせると合わせひらいたり雑談をたのしんだりしている。いちいち辞書をひかなければわからないようなことばはつかわれないし、だいいちそんなにたくさん

んの語彙があることさえ意識してはいない。〔ア〕

それなのに、世の中にはむずかしいことばをつかわなければ学問ではない、と

VIII

に信じているひとびとがいる。「専

門用語」というのがそれだ。なるほど、医学や物理学のような「科学」の世界では専門家でなければわからないような「専門用語」が必要なことがしばしばである。〔イ〕

だが人文学、とりわけ世間を相手にしている「社会学」では、できるだけ「はなしことば」に近い「文字ことば」で文章をつくることに心すべきであろう。「社会学者」になるためにはその専門用語を駆使しなければならない、などというのはとんでもないまちがいだ。「社会学」というのは「世間話」の延長なのだから世間につうじることばで語ることができなければ社会学者とはいえない、とわたしはおもっている。〔ウ〕

さらにいうなら、「日常会話」はことばによるコミュニケーションの基本である。「英会話教室」のたぐいを軽蔑して、英語を本気で勉強するなら、まずきつちりと文法からはじめなければならない、といったようなことをいうひとがいるが、それはまちがいだ。なぜなら「おはよう」「こんにちは」からはじまって、食べ物好ききらい、ゆうべみたテレビ番組の感想、サッカーや相撲のうわさ話……といった「日常会話」こそがわたしたちの生活をささえてくれているからである。ふつうのことをふつうのことばではなす「英会話」ができれば、大手をふって世界じゅうどこにいてもそんなに不自由はしない。

日本語だっておなじこと。ふだんのことばでやりとりをして、おたがいうなずいたり、いつしよに笑ったりできればそれでじゅうぶんではないか。文法なんか、おおむね必要ではない。〔エ〕

それなのに職業的社会学者はやたらにめんどうで、むずかしいことばをつかう。なかには専門用語がわからなければ社会学者とはいえない、などと公言する大学教授もおられる。〔オ〕

専門用語というからキコエはいいが、なんということはない、あれは「業界用語」(ジャーゴン)というもので、やくざの隠語とおなじようなもの。その隠語を共有できる人間たちだけで「学界」を維持しようというだけのことなのだから、あんまり気にしないほうがいい。

だれにでもわかることばでコミュニケーションをかんがえよう、というのはわたしがこれまでじぶんの著書でなんべんもくりかえしてきたことだから、これ以上くどいことはいいたくないが、とにかくわかりやすい日常用語でものごとを記述し、みずからのかんがえを表現するのがわたしたちにとっての「ことばの作法」というものだ、とわたしはおもっている。「文字ことば」は、できるだけその原点になる「はなしことば」に立ち戻ることを目標にして書くのがいい。なんべんもいうが社会学という学問はしよせんは世間話である。世間話は「はなしことば」で語られるものなのだ。

(加藤秀俊『社会学 わたしと世間』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

さらにいうなら、わざわざむずかしいことばをつかう理由などどこにもありはしない。

- ① 「ア」 ② 「イ」 ③ 「ウ」 ④ 「エ」 ⑤ 「オ」

問一 傍線部A「なぜ「顔と顔」の対面コミュニケーションが必要なのか」という問いに対して筆者はどのように考えているか。筆者の考えとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 相手の顔を見ることができなければ、相手の言葉を理解するのに決定的に重要な肉声を聞くこともできず、深いコミュニケーションをかわすこともできないから。
- ② 相手の表情からは言葉以上に考えが伝わってきて、言葉を交わさなくてもその考えが理解できるが、そうでなければコミュニケーションをはかることはできないから。
- ③ 直接会わないと相手の雰囲気伝わらず、その人そのものを感じることができないため、深いコミュニケーションをかわすことができないから。
- ④ お互いの顔を実際に見てみると、相手の表情を読み取ることができず、安心してコミュニケーションをかわすことができないから。
- ⑤ 人間は見た目が重要であり、歩き方や服装からその人の雰囲気が伝わってきてそこから考えを読み取ることができるが、そうでないとコミュニケーションをかわすことができないから。

問二 傍線部B「体感」によるコミュニケーションの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 人は言葉にあらわれない相手の気持ちを読み取ることが難しい。
- ② 人は相手の表情や動作からその人の気持ちを察することができる。
- ③ 人は言葉になって表明される気持ち以外のことはその表情から読み取るしかない。
- ④ 人は表情やしぐさからは読み取ることができない本心を心の奥にひめている。
- ⑤ 人はその態度が悪いとせつかくの気持ちも相手に伝わらない。

問四 傍線部C「目は口ほどにものをいい」と最も近い意味の言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 目から鱗うろこが落ちる。
- ② 目から鼻に抜ける
- ③ 目の色を変える
- ④ 目から入って耳から抜ける
- ⑤ 目は心の鏡

問五 空欄 I に入る最も適当な言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

- ① 愛情
- ② 愛想
- ③ 対案
- ④ 誠意
- ⑤ 補償

問六 空欄 II に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

31

- ① 片言隻句
- ② 美辞麗句
- ③ 巧言令色
- ④ 大言壮語
- ⑤ 沈思黙考

問七 空欄 へ に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|----|-----|---|-----|----|-----|-----|-----|
| ① | III | 文字 | IV | はなし | V | はなし | VI | 文字 | VII | 文字 |
| ② | III | はなし | IV | 文字 | V | はなし | VI | 文字 | VII | 文字 |
| ③ | III | はなし | IV | 文字 | V | 文字 | VI | はなし | VII | はなし |
| ④ | III | 文字 | IV | はなし | V | はなし | VI | 文字 | VII | はなし |
| ⑤ | III | 文字 | IV | はなし | V | 文字 | VI | 文字 | VII | はなし |

問八 空欄 に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① えらそう ② おもむろ ③ きがる ④ うれしそう ⑤ かたくな

問九 筆者が、ことばによるコミュニケーションで最も大事だと考えていることは何か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 場面や立場にふさわしいことばを用いて会話すること。
 ② 「はなしことば」と「文字ことば」を適切に使い分けること。
 ③ 専門用語を用いることでより正確に考えを表明すること。
 ④ できるだけ「はなしことば」に近い「文字ことば」を用いて話すこと。
 ⑤ ふだん用いているわかりやすいことばで考えを表明すること。

問十 問題文における筆者の主張として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① コミュニケーションをとるうえでことばは重要だが、実感をともなわないことばはかえって信頼を損なうことがある。
- ② われわれの生活のなかでことば以上に重要なものはなく、誰もがあらゆることばを使いこなすことが望ましい。
- ③ 日常会話で用いるのに辞書を引かなければならないようなことばは不要であり、専門用語などは用いる必要がない。
- ④ コミュニケーションをとる場合、「体感」は相手の実在を感じることができるといふ点でことば以上の力をもつ。
- ⑤ 世の中には専門用語を用いることが自分の権威を示すことだと信じて疑わない人がいるが、それはまちがいである。

2025 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 5 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 22 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 35 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

あらゆる物語には「構造」があります。

これはほんとうです。

すべての小説は「人が歩いてきて穴に落ちる。落ちて死ぬ」か「穴から這い上がる」か、どちらかの話である、という説があります。

なるほど。そんなものかも知れません。

まあ、これはキョクタン^aなたとえですけれど、物語が物語として成立するためには、どうしてもそれだけは書き込まないといけない^Aいくつかの「仕掛け」というものは間違いなく存在します。

例えば、「よい人」というキャラクターは自立的には存在しません。

「よい人」が出てくる話には必ず「悪い人」も出てきます。それは「悪い人」の「悪さ」と対立的に描くことでしか「よい人」の「よさ」という性格特性を際立たせることができないからです。

仮にあなたが「よい人ばかりが出てくる物語」というのを書こうと望んでも、それは不可能です。「世界中の人々はみんない人なんだ」ということをあなたが心底確信していて、そのメッセージを伝えようとしてどれほど汗だくになって書いても、それが物語である限り、「いい人だけ」しか出てこない物語はやはり書けません。「悪い人」が出てきて、悪さをしない限り、「よい人」が「よい」ということが読む方にはどうしたって分らないからです。

「悪い人」が出てこない場合は、「よい人」の心にふと兆した「邪悪な思念」や「**I** 欲望」というかたちで、「悪い人格」が分離されます(倉本聰^{くらもとさとし}の『北の国から』には悪人がみごとに一人も出てきませんが、その代わりに、人間の無垢さや脆弱^{ぜいじやく}さのうちに巢喰う本能的な邪悪さは、非情なまでに描かれています)。

同じように、あなたがジャーナリストであって、まったく価値中立的なしかたで、ある「国際紛争」を報道しようと望んでも

それは不可能です。〔ア〕

例えば、「パレスチナ」問題を報道するとき、どこかに「被害者」を、どこかに「加害者」を配すること抜きに、この問題を語ることはできません。〔イ〕

「いや、パレスチナ人もイスラエル人も、どちらも被害者なのだ」というようなことを言う人がいるかも知れません。でも、被害者だけしかない国際紛争というものを報道して、読者が納得すると思いませんか？〔ウ〕

そういう場合は、結局、「イギリス植民地主義の二枚舌外交」とか「アメリカ政府内のイスラエル・ロビー」とか「国際社会の無関心」などに「加害者」の役割が押しつけられることになります。誰に「悪役」を振るのが違うだけで、物語のⅡには変化がありません。どんな問題についても同じことです。どこかでシステムが破綻するとき、必ずそこには「被害者」と「加害者」の物語が発生します。〔エ〕

政治や経済のシステムが破綻するときに、メディアは「張本人」探しに熱中します。秩序が混乱する時期の「風刺漫画」の類には、必ず「秩序の崩壊によって受益しているワルモノ」が図像化されます。〔オ〕

ある象徴的な存在に社会の「悪」が集中的に体现されており、その存在がすべての「悪」の原因である。だから、それを特定し、それを摘抉^{てっけつ}しさえすれば、社会はもとの安寧と秩序を回復する、というのは、人類が誕生してからずっと生き続けてきた「社会についての原型的説話」です。

「悪」に擬されるものは、時代とともに、地域とともに、変わります。でも、図式そのものは変わりません。「悪」の表象は、異教徒、悪魔、半獣人、ユダヤ人、フリーメーソン、資本家、ブルジョワジー、移民、売国奴、男権主義者……どんな姿にも化けることができます。

私たちはこの二項対立図式を終わりにして今に至っています。

私は別にこういう二項対立図式で物語を語るのが「よくない」と言っているわけではありません(だって「ものごとを『良い悪』の二項対立図式で語るの『良くない』』と言うのって、すでにⅢでしよう?)。

だから、ことは「良し悪し」の水準にはないのです。

そうではなくて、そういうふうな「物語」の中に盛り込むことなしには、私たちはひとことも出来事を語るができない、ということを知っておきましょうと私は申し上げたいわけです。

メディアから^bテイキョウ^cされるすべての情報は「物語」です。

国際政治も経済も社会問題も、どのトピックについても、私たちは物語を通じてしか、それについて知ることも、論評することも、態度決定することも、メッセージを発信することもできません。「物語を排し、真実のみを語れ」というような

IV

なことを言う人がいますが、これは世の中の仕組みの分かっていない人の寝言です。

物語を語るな、ということは、知ることも、批評することも、コミュニケーションすることも、すべてを断念せよということ
です。そんなことできるはずがありません。

私たちはどのような出来事についても、そこから「有意義なデータ」を選び出し、「どうでもいいデータ」を棄て、ひとまと
まりの「情報」単位を構成します。私たちはかならずデータの **V** を行っています。

私はただそのことを「お話を作る」というふうに言い換えているだけのことです。

「いや、そんなはずはない」と反論する方もいるかも知れませんが。「自然科学には『物語』なんかないぞ。」

そんなことはありません。

自然科学における「仮説」というのは要するに「とりあえずの事例に適用できるお話」のことです。さしあたりもつともロジ
カルで、カバリッジが広い「物語」を私たちは教科書で「科学的真理」として教わります。でも、その「真理」も暫定的なもの
に過ぎず、別のもつとロジカルで適用範囲の広い仮説が登場して公共的にショウニン^oされたら、もうそのあとは教科書には載せ
られません。

近代ヨーロッパでは、倍率の高い顕微鏡が発見されるまで、人間の生殖は、男性の精液の中に「小さな人間」が入っていて行

われるという説が科学的真理として大学で教えられていました。燃焼が酸素と水素の結合であるという仮説が認知されるまでは、燃焼は「燃素」というものの働きであるとされてきました。

というのも、そういう仮説を立てると、それまで説明できなかったいろいろなことがうまく説明できたからです。いまの中学の理科の教科書には「ホムンクルス」も「燃素」ももう出てきませんが、それは単にそれより「もつとうまく説明できる」物語を私たちが手に入れたからです。

^D あらゆる科学的理論は「仮説」です。

「仮説」というのは「とりあえず作ってみたお話」のことです。

ですから、アインシュタインは、科学者の栄光とは「彼の立てた仮説が、そのあとに出されたさらに包括的な仮説の中に、限定的事例に妥当する理論として引き続き居残れること」にある、と語ったのですし、カール・ポパーは科学的精神とは、自説を傍証する事例ではなく、自説を反証する事例を優先的に探索するような知性のあり方のことである、と書いたのです。

アインシュタインもポパーも言っていることは同じです。科学的理論とは「とりあえず作ってみたお話」である。その節度を知らぬものが科学者であり、「あらゆる事例に汎通的に妥当する真理」を自分は知っていると思い込んでいるものは科学者ではない、ということなのです。

(内田樹 うちたたる 『映画の構造分析』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注] *カバリッジ……報道や取材など対象物がどの程度網羅されているかの指標。カバレッジともいう。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

それはそのときどきによって、悪徳政治家であったり、貪欲な資本家であったり、悪質なイデオログであったり、「外国人」であったりしますが、基本的な構図は変わりません。

- ① 「ア」
- ② 「イ」
- ③ 「ウ」
- ④ 「エ」
- ⑤ 「オ」

問一 傍線部 a、c と同一の漢字を使うものを、次の各群の ①～⑤ のうちから一つ選べ。

- a 2 b 3 c 4

a キョクタン

- ① 色のノウタンにこだわった絵画
 ② タンカを詠む
 ③ 海外にタンシン赴任する
 ④ 体のタンレンを怠らない
 ⑤ タンゴの節句のお祝い

b テイキョウ

- ① テイコク主義的な発想
 ② 梅雨前線がテイタイする
 ③ テイシュツ期限を守る
 ④ ホウテイで意見を述べる
 ⑤ 花束をゾウテイする

c ショウニン

- ① ショウゲキ的な場面にでくわす
 ② 議会のリョウショウを得る
 ③ ショウカにいい食べ物
 ④ ショウヒンを輸入する
 ⑤ 新しい本をショウカイする

問三 傍線部 A 「いくつかの「仕掛け」とはどのような仕掛けか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① あらゆる出来事を客観中立的に語るための仕掛け。
- ② 善人と悪人から人間の無垢な脆弱さを読み取る仕掛け。
- ③ 語りのシステムをよどみなく進めるための仕掛け。
- ④ 外国の問題を通して被害者の実像を拾い上げる仕掛け。
- ⑤ 二項対立の図式で物語を組み立てる仕掛け。

5

問四

空欄

I

- ① いちじるしい
- ② おくゆかしい
- ③ たくましい
- ④ いかかわしい
- ⑤ うるわしい

6

問五

空欄

II

- ① 象徴性
- ② 枠組み
- ③ 張本人
- ④ 精神性
- ⑤ 報道の価値

7

問六 傍線部B「人類が誕生してからずっと生き続けてきた「社会についての原型的説話」の説明として、**不適当なもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

8

- ① 社会における悪の体现者を選別し、社会の平安をもとめること。
- ② 出来事を物語る行為において、受け手が象徴的な悪の表象を選別していくこと。
- ③ 社会を安定させるシステムが破綻したとき、秩序を回復するために悪を探すこと。
- ④ 時代や地域によって象徴される悪はそれぞれ異なるため、絶対的な視野から物語ること。
- ⑤ 被害者と加害者という二項対立の図式を盛り込むことが、基本的な構図としての物語であること。

問七 空欄Ⅲ・Ⅳに入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つずつ選べ(同一選択肢の反復使用は不可)。

Ⅲ 9 Ⅳ 10

- ① 無謀
- ② 痛恨
- ③ 背理
- ④ 克己
- ⑤ 矜持
- ⑥ 不屈

問八 傍線部C「すべての情報は「物語」とあるが、それはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

11

- ① 情報の中から、必要なものを取り出し作られるのが物語だから。
- ② 知り得た情報に対して、自己を投影しながら語り直されたものが物語だから。
- ③ 情報の価値を重視し、そこから派生するコミュニケーションを作るのが物語だから。
- ④ 発信されない情報の裏を読み取りながら、主観で語るのが物語だから。
- ⑤ 巨大な社会悪に対して、正義の観点から裁いていくために語られるのが物語だから。

問九 空欄 V に入る四字熟語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 生生流転 ② 有言実行 ③ 主客転倒 ④ 取捨選択 ⑤ 朝令暮改

12

問十 傍線部D「あらゆる科学的理論は「仮説」です」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① 仮説をたて想像力を生かしながら、現実の出来事を理論立てるから。
② 科学の方法は、神話的な物語によって成り立つべきだとされるから。
③ 科学的真理は仮説を想定し、それが説明できたときに公共的に認められるから。
④ 過去の科学者たちの言説を繰り返し重視し、自説を傍証する必要があるから。
⑤ 近代ヨーロッパにおける仮説こそが、科学的理論そのものであるから。

問十一 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。

14

15

- ① 物語には長い歴史の出来事がつねに反映されているので、善悪といった二項対立的視点から読む必要がある。
② 人間は自由に発想することができないが、前代から引き継がれた物語に仮説をあたえ読みなおすことはできる。
③ 政治や経済のシステムが破綻するときに発生する物語においては、秩序に対する悪役が凶像化されやすい。
④ メディアによって発信された情報は、成否を問わず流通することであらたな情報を生みだし正しい物語を作る。
⑤ 膨大な情報の中から有意義な情報を用いて、仮説としての物語をつくるのが人間の営為であるといえる。
⑥ 自然科学は科学的な法則を重んじるため、自由に発想された物語は科学的事例に適用できないとされている。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

《宗貞は才学豊かな好色者であった。「帝」の寵臣として出世する一方、「太臣」からは素行がよくないと疎まれていた。》

帝は嘉祥二年に崩御ありて、御陵墓を紀伊の郡深草山につきて、葬り奉るなべに、深草の帝とは申し奉るなりけり。御葬りの夜より、宗貞行方しらず失せぬ。これは太后、大臣の御憎みを恐れてなり。殉死といふこと、今は停めさせしかど、この人生きてあるまじきに、人はいひあへりける。衣だに着ず、簀笠に身をやつして、ここかしこ行ひありきける。清水寺にこもりてある夜、小町もこよひ局して念じあかすに、となりの方に経読む声 **I** ならざりし、もしや宗貞ならんかとて、歌よみてもたせてやる。

石の上に旅寝はすれば肌さむし苔の衣を我にかさなむ

宗貞の法師、この紙の裏に、墨つぼの墨してかきてやるは、手を見れば小町なりけりと知りてなり。

世を捨てし苔の衣はただひとへ重ねて薄しいぎ二人寝む

かく云ひて、そこをはやく立ち去りぬ。小町、さればこそとて、をかくし思ひ、五条の太后の宮に見せたてまつる。「先代の御形見のものよ」とて、探し求めさする時なり。「いかでとどめざる」と、うちうめかせたまひぬとぞ。

〔春雨物語〕による。なお、設問の都合上、原文の一部を改変した箇所がある。〕

〔注〕 * 帝……………仁明天皇。八一〇〜八五〇。

* 紀伊の郡深草山……………現在の京都市伏見区深草東方の丘陵。

* 太后……………嵯峨天皇皇后で仁明天皇の母、橘嘉智子。七八六〜八五〇。

* 小町……………小野小町、六歌仙および三十六歌仙の一人。

* 苔の衣……………隠者・僧侶などが着る粗末な衣。

* 五条の太后の宮……………仁明天皇女御、藤原順子。八〇九〜八七一。

問一 傍線部A「この人生きてあるまじきに、人はいひあへりける」とあるが、人々がこのように噂をした理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① 宗貞は帝に親しく仕えていたので、帝の跡を追って死んだのだろうと思ったから。
- ② 宗貞は俗世に未練を残さず出家したので、この世に存在しないも同然だと思ったから。
- ③ 宗貞は太后や大臣に憎まれていたので、きつと殺されてしまったのだろうと思ったから。
- ④ 宗貞は帝の死によって官職を辞したので、生活に困窮して餓死したのだろうと思ったから。
- ⑤ 宗貞は帝の死で出世の道が閉ざされたので、将来を悲観して命を絶ったのだろうと思ったから。

問二 傍線a～eの「し」のうち、「過去」の助動詞はいくつあるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

17

- ① 一つ
- ② 二つ
- ③ 三つ
- ④ 四つ
- ⑤ 五つ

問三 傍線部B「行ひありきける」、傍線部D「手」の問題文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。

18 . 19

B 行ひありきける

- ① 歩いて旅をした
- ② 歌を作る旅をした
- ③ 逃げ回っていた
- ④ 修行をして回った
- ⑤ 思い出の地を巡った

D 手

- ① 手のひら
- ② 歌の技量
- ③ 使いの者
- ④ 歌の筆跡
- ⑤ 異性の誘い方

問四 空欄 I に入る漢字として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 徒あた
- ② 艶
- ③ 興
- ④ 堂
- ⑤ 凡ほん

20

問五 傍線部C「苔の衣を我にかさなむ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

21

- ① あなたの苔の衣を私に貸してほしい。
- ② あなたは苔の衣をきつと私に貸すだろう。
- ③ あなたの苔の衣を私に重ねてほしい。
- ④ あなたは苔の衣をきつと私に重ねるだろう。
- ⑤ あなたの苔の衣を私と見てほしい。
- ⑥ あなたは苔の衣をきつと私と見て見ているだろう。

問六 傍線部E「さればこそ」とあるが、小町は具体的にどう思ったのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① やはり、宗貞は私に恋心を抱いていた。
- ② やはり、宗貞は出家していたのだった。
- ③ やはり、読経の声の主は宗貞で間違いなかった。
- ④ やはり、宗貞の好色な性格は昔のままだった。
- ⑤ やはり、宗貞は今も変わらず私を愛していた。

問七

傍線部F「いかでとどめざる」には、五条の太后の宮のどのような気持ちが表れているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 帝に寵遇された宗貞は衣食もままならず支援を必要としているはずなのに、その場をすぐに立ち去ってしまった真意を量りかねている。
- ② 亡き帝は宗貞の豊かな才学を認め重用していたので、先帝の形見ともいうべき宗貞の詠歌をどのように後世に残すべきかと思案している。
- ③ 行方知れずの宗貞を捕らえて罰する絶好の機会だったのに小町が歌だけを持ち帰り宗貞本人を取り逃がしてしまったことに腹を立てている。
- ④ 宗貞は帝が亡くなってから決して人前に姿を現さなかったのに、小町にだけは自分が生きているとそれとなく伝えたことを不思議に思っている。
- ⑤ 帝の恩を受けている宗貞と共に亡き先帝を偲しのびたいと行方を探していたのに、小町がせっかく見つけた宗貞を引き留めなかったことを残念に思っている。

問八 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 宗貞の好色の性は出家後も変わることなく、共寝をしようと小町を誘って彼女を呆れさせた。
- ② 宗貞は清水寺で小町との念願の再開を果たしたが、世評を気にして早々にその場を立ち去った。
- ③ 宗貞はからかい半分で歌をよこした小町に立腹し、わざと気のあるそぶりを見せてすぐに立ち去った。
- ④ 小町は宗貞の失踪直後からひそかに探し続け、清水寺でようやく彼を見つけることができた。
- ⑤ 小町は清水寺での宗貞のふるまいを面白く思い、宗貞を探していた五条の太后の宮に彼の歌を見せた。

24

問九 『春雨物語』と同じ作者によって書かれた作品として適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 浮世物語
- ② 雨月物語
- ③ 好色一代男
- ④ 曾根崎心中
- ⑤ 南総里見八犬伝

25

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一九八二年、アメリカの社会学者N・ポストマンは、メディア社会における子どもの変貌を論じて、『子どもはもういない』という一書を世に問い、関係者たちの話題を呼んだ。文字がメディアの中心にあった時代から、映像中心の時代へと移行したことに、一八世紀以来の子ども―大人関係は崩壊する。結果として、従来のような意味での「子ども」は存在し得なくなると主張したのである。〔ア〕

文字の習得は学習期間を必要とするが、一度それを獲得した後はその価値が薄れることはない。したがって、先に文字を身につけてしまったものが優位に立つのは必定であり、そこに、文字を持った層と無文字層との間の階層が生じる。近代社会の子ども―大人関係は、こうした階層構造の上に成り立つものであった。しかし、文字に代わって、映像あるいはその他の記号がメディアの王座につき始めた今日、この構造は変化せざるを得ない。メディアに対する解読と表現の能力に優劣の格差が少なくなれば、大人優位の関係が消滅するのは確かであろう。文字が、階層社会を発生させ、それが権力に繋がる^{つな}とは、周知の言説ではあるが、それが、子ども―大人関係に適用されたことで、この評論は、新鮮に受け止められたのであった。〔イ〕

改めて押さえ直すまでもないが、一七―一八世紀にかけてのヨーロッパのコミュニケーション革命は、文字の普及・拡大によって生じている。産業形態の変化に伴い、文字が、一部特権階級の所有物であることから逃れて広く庶民層にまで広がり、彼らの生活に主導力を発揮するようになった。印刷技術の発達^はが、それを助長したことは言うまでもない。以後、文字と人々は、Iの関係を取り結び、文字を知ることが暮らしを優位に導く一つの手段として重視され始める。文字教育の必要性は、広く庶民の視野にも浮上して、初等教育が発展期を迎える。子どもたちの生活のなかで、「読み書きの学習」が、主要な位置を占め始めるのである。〔ウ〕

近代産業社会は、子どもを「保護」と「教育」の対象として発見したと言われる。ここでの「教育」とは、言うまでもなく、文字学習をその根底におく教授中心の「学校教育」を指す。したがって、その「教育」において必要とされたのは、すでに文字

を獲得しそれを駆使している教師、すなわち、教授するものとしての先行世代であった。大人と子どもの間に、「教える―教えられる」という権力関係が発生するのはこの所以である。〔エ〕

わが国の場合も江戸時代中期に、人々は類似の変革に見舞われている。西欧と比して印刷技術に相違はあるものの、文字によるコミュニケーションが、広く庶民層までを覆うようになる。とりわけ、「江戸」のような大都市では、高札・瓦版などのコミュニケーション形態の普及により、文字能力の有無が暮らしの便利さと有意に結び付くことが実証されている。「寺子屋」と通称される「手習い塾」の発達や、庶民レベルの識字率の向上は、こうした状況を物語る格好の例と言えよう。〔オ〕

明治以降、初等教育が国家的権威を背負うて子どもたちを擲め捕るようになる、大人が獲得した「文化所有層」としての権威は、より確固たるものと化して子どもたちへのしかかってくることになる。モーセの十戒や儒教道徳に起因する年長者への敬意や、おのずからなる年少者への慈愛に基づく結び付きではなく、文化を持った大人とまだ文化を持たない子どもとの間に、保護し・保護され、教え・教えられるという新しい役割関係が成立したのである。近代が産出した「教育熱」や「児童保護」とは、こうした関係の具体的表現でもあった。

いつの時代でも、大人は子どもに対して、常に Ⅱ 的關係を取り結んできている。先行世代が獲得した生活の技術を、後続世代に伝えることを怠るなら、その種族は自然や他種族との厳しい戦いを戦い抜くことが出来ないからである。動物を狩り、魚介類を漁り、作物を育てるなど、すべて与えられた環境のなかでよく生き抜くための知恵であり、そのための技術に他ならない。子どもたちは、大人とともにそれらの営みに参加することを通じて、それぞれの知識と技術を身につけ、成長とともにそれらに習熟して、生存に事欠かぬだけの知識・技術の持ち主であると認められたとき、一人前の徴を付与されるのが常であった。

したがって、教育の成果とは、一人前になれるか否かで決まる。仮にそれぞれの技に優劣があろうとも、その序列化にまして「二人前としての自立権の獲得」にこそ重きがおかれた。子どもたちは、自身の属する種の一員として生き抜くために、要求される技のあれこれを最低限度は獲得せねばならない。それが、やすやすと取得された巧みな技であらうとも、また、ようやく身

につけられた拙い技術であつたにせよ、最低基準を満たしてしまえばそれでよい。つまりは、一種の資格試験であり、その最低ラインに到達するか否かは

III

次第ということになる。

たとえば、一人前の徴として、単独で一定期間内に、ある広さの畑を耕すという課題が与えられているとする。その場合、達者な農作業の腕を発揮して短時間で成し遂げようとも、あるいは、夜を徹して働いてやつとぎりぎりに期限に間に合ったにせよ、課題が達成されていれば同等に扱われて、一人前の資格を与えてもらえる。したがって、他者と比較しての技の巧拙や敏速さは、とりたてて問題とされず、結果として、教える側の大人の、教授者としての巧拙も、さほど問題とはなり得なかつたのである。

しかし、文字文化の興隆によつて「教師」という社会的身分が用意されると、文字を獲得した大人が単に既得の技を伝えるだけの役割を越え、「教師」には、いかに巧みにいかに効率的に、未習得者にその技を伝え得るかが問われるようになる。つまり、教授の仕方の巧拙が問題とされるのである。その結果、巧みに教える者が、「よき教師」として評価され、それなりの地位と財力を確保し得るのは当然であろう。「教師」あるいは「学者」という、知識を売る商売の発生である。文字とその学習が身分と財力をもたらすとなれば、それは、おのずから、学ぶ者たちの上に新しの抑圧を用意する。よき学習者、すなわち、懸命に励んで他者を凌駕^{りょうが}することが、将来の地位や富を左右するとして、

IV

し始めたのであつた。勉強時代の到来は、子どもたちを、文字による権力志向へと追いついて、「文字文化」という新しい抑圧機構のなかに組み込んだのである。

文字文化がもたらした権力の構図は、教える大人を絶対の地位に置いた。文字は、字体にせよ文法にせよ、一定の規範に従つた文化であり、その規範は一度獲得すれば生涯にわたつて有効に機能する。短期間に、全面的改定がなされて、既得のものが通用しなくなる、などということはないのである。したがって、先に文字を身につけた大人は、後から学ぶ子どもに対して、常に、その優位性を誇ることが出来る。「教師」「学者」などと呼ばれる専門家に至つては、その権威はゆるぎようもない。文字文化がもたらしたのは、こうした大人―子ども間の権力関係であつた。

しかし、文字文化の絶対性が薄れ、新しいメディアが興隆したことで、こうした子ども―大人関係は更改、もしくは逆転のと

きを迎えている。「子どもが分からない」という嘆声は、この関係の変化を十分認識し得ぬ大人世代の繰り言とも言えよう。しかも、この **V** 流は、ベビーブーム世代が漫画に熱中し、漫画文化に市民権を与えたとき、そして、先行する文字世代がその勢いを阻み得なかったとき、すでに、今日に向かって流れ始めていたのであった。

ほんだますこ
(本田和子『変貌する子ども世界』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *高札……………法令などを記し、人通りの多い所に高くかかげた札。

*瓦版……………事件などの速報記事を一枚刷りにしたもの。市中を売り歩いた。

*モーセの十戒……………旧約聖書にある、古代イスラエルの民族指導者モーセが神から与えられた十か条の啓示。父母を敬うことなどが記されている。

*ベビーブーム……………ここでは第二次世界大戦後に起こった人口急増現象のこと。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

いわゆる、「勉強時代の到来」である。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問一 傍線部A「メディア社会における子ども」の説明として不適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 文字文化が生んだメディア社会にあつては、権力関係において子どもが大人の上に立つことを事実上不可能にした。
- ② メディアに対する理解の能力において子どもと大人の優劣がほぼ解消し、それがメディアの変容に影響を及ぼした。
- ③ 子どもが大人に対して劣位にあるという構造は、文字メディアが中心化している近代社会に特有のものであつた。
- ④ メディア社会の変化によってメディアを解読する能力の差異がなくなれば、子どもが優位になることもありうる。
- ⑤ 文字はメディアの王座を占めていたが、映像やその他記号に主軸が移り、子どもと大人の階層構造は流動化している。

問三

空欄

I

に入れることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 不可抗
- ② 不可欠
- ③ 不可逆
- ④ 不可避
- ⑤ 不可分

問四

傍線部B「こうした関係」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 年長者や年少者に対して湧き上がる親和的な感情を、あえて抑える機械的な関係。
- ② 保護や教育といった観点を超えて、教える者と教わる者とが共に学び合う互恵的な関係。
- ③ 持つものが持たざるものに、自身の持つものを一方向的に与える固定的な関係。
- ④ 時代によって異なる価値観や、それに伴って変化する序列を反映する流動的な関係。
- ⑤ 誰もが抱く敬意や慈愛を背景にして、国家の意思に従わせる権威的な関係。

問五 空欄 Ⅱ に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 権力
- ② 保護
- ③ 教育
- ④ 絶対
- ⑤ 慈愛

30

問六 空欄 Ⅲ に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 生存の条件
- ② 先行世代の熟練
- ③ 基準の難易度
- ④ 共同体の意向
- ⑤ 本人の努力

31

問七 空欄 Ⅳ に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 好んで学びの道へ猛進
- ② 親たちの財や富を収奪
- ③ 巧みな教授者を求め漂流
- ④ 彼らの現在の自由を束縛
- ⑤ 過去の負債を減らすべく努力

32

問八 傍線部C「文字文化」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

33

- ① 教育を受けた人を中心に文字を持った層が多くを占めるようになった結果、無文字層の多くいる文化圏に見られるような映像や記号からメッセージを読み取る能力は次第に弱体化していった。
- ② メディアの発達に促される形で文字を持った層が広がり、文字は多くの人々の生活を左右する存在と見なされるようになり、文字を駆使できる者になることを多くの人が目指すことになった。
- ③ 一度文字を獲得すればその価値を享受することができるが、文字の獲得には長い学習期間が必要であるため、文字を持った層と無文字層との間の階層の差異は埋まることはなかった。
- ④ 文字は当初は一部特権階級の所有物でしかなく、文字の持つ力は限られた人々によって占有されていたが、メディアの発達によって文字を持った層が増えた結果、階層の逆転が起こった。
- ⑤ 無文字層が多くを占めていた時代において文字は生活を左右するまでの存在ではなかったが、その必要性がやがて高まっていくことを予見していたのは一部の富裕層だけであった。

問九 空欄 に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

34

- ① 潮
- ② 一
- ③ 源
- ④ 傍
- ⑤ 本

問十 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

35

- ① 生存を可能にする程度の知恵や技を子どもが得ることが教育の目標であるのは、文字文化の時代でも変わらない。
- ② 共同体の一員として必要な知恵や技のあれこれを、大人から子どもへと引き継ぐことで権威の維持を行ってきた。
- ③ 子どもは文字文化を学ぶことを大人から要請されているが、そこではいかに効率的に学ぶべきかが問われている。
- ④ 地位や財を得るために文字の教育が重視された結果、教師や学者という商売に知識を売るという側面が加わった。
- ⑤ 文字の規範において大きな変化はほぼないために、文字文化が存続する限り文字習得者には既得権益をもたらす。

2025 年度 入学試験問題

一 般 入 試 前 期
〔 3 教科型 ・ 2 教科型 〕

2 月 6 日

第 3 限

国

語

〔 現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く） 〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 23 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 36 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「環境」という言葉を耳にするとき、読者は何を連想するだろうか。緑豊かな森林の情景、最近では気候変動に伴う異常気候や災害をあげる人がいるかもしれない。では「環境を守る」といった場合はどうだろう。開発によって失われる熱帯雨林、絶滅が危惧される野生動物、あるいは企業がセン^aデンする「環境に優しい日用品」、「エコな自動車」、そうしたものがあげられるだろう。

しかし、^Aここで想定されている「環境」とは、そもそも何なのだろうか。ここではとりわけ「人間にとっての環境」とは何かについて、環境哲学的に考えてみたい。

「環境」とは、常に「何者かにとっての環境」である。まずはこのことについて考えてみよう。実はこの規定は、「環境」という概念が、そもそも特定の「主体」を想定した際に、その「主体」を「めぐり囲むもの」を指すものだったことに深い関わりがある。何を「主体」と想定するかで、「めぐり囲むもの」の実像はまったく異なるものになるからである。

^Bこのことは、生物学的に考えてみるとわかりやすい。例えば二〇世紀初頭の生物学者であるJ・ユクスキュルによれば、マダニという生物は、産卵期を迎えると樹上に身を隠し、地上を通る哺乳類に取りつく、体毛を分け入って吸血し、その栄養素を用いて産卵する。マダニは、眼も見えなければ、音も聞こえない。それでもマダニが一連の行動をや^cつてのけるのは、マダニが哺乳類の皮膚腺から発せられる酪酸を感知して樹上から落下し、皮膚上では体温を感知して頭を食い込ませる運動をハン^bシヤ的に行うからである。問題は、このときマダニにとって、世界はどのようなものとして成立しているかということである。想像してみてもほしい。盲目で無音の世界に生きるマダニにとって、リアルなものとは酪酸の匂いと周囲の温かさだけである。それは私たちが目で見て感じている世界とはまったく異質のものではないだろうか。ここからユクスキュルは、生物というものは、それぞれに異なる固有の「環境」世界を生きているという意味を込めて、それを「環^d世界」と名づけたのである。

こうした生物と「環境」の関係性について、さらに動物学者の小原^{おはら}秀雄^{ひでお}は興味深い指摘をしている。小原によると、生物に

は、その生物種が想定している固有の生態環境、「広義の暮らしの場所(ハビタット)」というものが存在する。そして生物の本来の存在様式とは、「生物体」とそうした「ハビタット」が一体になったときに、初めて成立するというのである。例えばムササビという生物は、飛膜と呼ばれるひだを使つて高所からカックウすることが出来る。こうした生態的特徴が、森林という「ハビタット」と深く結びつく形で発達したことは明らかであろう。しかし生まれたばかりのムササビを、カックウできるように高所が一切存在しない、平坦な箱に閉じ込めて成育したとしよう。するとムササビはカックウするということが出来なくなる。このときその個体は、確かに「生物体」としては野生のものと同じである。しかしその個体が、ここでムササビという「存在^E」を十全に確立していると、はたして言えるのだろうか。小原の指摘は、生物にとつての「環境」が、単に生物種に固有のものであるだけでなく、その「存在のあり方」を規定するうえできわめて重要であるということを示唆しているのである。

では、私たち「人間」の場合はどうなのだろう。注目したいのは、「人間にとつての環境」の場合、生物体と深く結びつく「ハビタット」が、単なる「自然環境」には収まらないという点である。人間という生物は、他の生物とは異なり、「自然環境」の上層に「社会環境」というものを自ら作り上げ、その二重の「環境」を「ハビタット」とするからである。

「自然環境」と「社会環境」が区別されることは、一見あたり前のようで、実際は「人間にとつての環境」の特徴をよくあらわしている。人間の世界においては、この二重の「環境」がきわめて普遍的な構造となるためである。例えば伝統的な山間部の集落においては、河川や奥山といった「自然環境」が土台となり、人間の関与によつて、田畑や里山といった「人工生態系」が形作られている。他方でビルが乱立する大都市に「自然環境」はないのかというと、アスファルトの下には数多くの微生物を含んだ土壌が存在するように、やはりここにも二重の「環境」があることに気づかされよう。

このとき「社会環境」は、人間が人間であるために、きわめて重要な役割を担っている。例えば私たちも経験的に、地域や文化の違いなど、「社会環境」のあり方によつて、人間の姿が驚くほど変わってくることを知っていよう。ひとことで「人間」といっても、遺伝的に与えられる生物としての「ヒト」の枠組みが、実際の「人間」として、いかなる形で調整され、発現される

のかは、かなりの部分で「社会環境」が決め手となるからである。

ここで注目してほしいのは、人間が作り出す「社会環境」というものには、目に見える「物質的な部分」と同時に、目には見えない「非物質的な部分」が存在するということである。「物質的な部分」には、例えば道具や構造物といったものがある。古代の石器や毛皮にはじまり、田畑や家屋、現代の高層ビルまで、これらはいずれも人間が、自然生態系に存在する物質の一部を人工的に組み替えたものである。それに対して「非物質的な部分」には、例えば言語や文化、より正確には、人々を秩序立てる社会制度や、私たちが物事を思考する前提となる概念や世界観といったものが含まれる。つまり

II

は、こうした「社会環境」の「物質的な部分」と「非物質的な部分」が、ともに重要な意味を持つのである。

このように「人間にとつての環境」の特徴を理解することは、今日私たちが環境問題、あるいは「持続可能性(サステナビリティ)」と呼ぶものについて、大事な示唆を与えてくれる。

なぜなら人間にとつて、この二重の「環境」は普遍的な構造でありながらも、「社会環境」の規模や形態そのものは、この二〇万年の間、驚くほど変化を遂げてきたためである。例えば農耕の成立以前と以後とは、「社会環境」が「自然環境」や人間に対してもたらす影響はまったく異なっている。これは農耕の成立によつてはじめて、人間が生存の基盤となる食料生産のシステムを自ら大規模に組織化できるようになり、耕地や都市、階級や宗教といった形で「社会環境」が膨張・複雑化していったためである。「自然環境」と人間の間には、「社会環境」は分厚い層をなして広がってゆき、それによつて人間は、自然淘汰の圧力から解放される。と同時に人間のあらゆる行為は、「自然環境」に対して、常に「社会環境」を媒介としたものになっていくのである。

そしてもうひとつの **III** は、産業革命以降に化石燃料を基盤とした「社会環境」が出現したと深く関わっている。石炭や石油といった化石燃料は、太古の生物に由来する有機物が変成したものであり、それをエネルギー源とすることによつて、「社会環境」はそれまで「歯止め」の役割をはたしていた「自然環境」から、半ば独立して膨張できるようになった。このとき以来、科学技術によつて「自然環境」からの影響をコントロールし、経済成長の論理のみによつて、ひたすら膨張を続けてい

く「社会環境」が成立したといっても良いだろう。そのことによって「社会環境」は、「自然環境」が持つ生態学的な収容能力を超えてしまった。近年の激しい気候変動もまた、実はそうした「持続不可能」な「社会環境」がもたらす歪み^{ゆがみ}としての側面があるのである。

(上柿崇英「環境」とは何か)による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

問一 傍線部 a、c と同一の漢字を使うものを、次の各群の ①、⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a 1 b 2 c 3

a センデン

- ① 一大センブウを巻き起こす
 ② 市街地の風景のヘンセン
 ③ 犯人がセンブクしている
 ④ ウイルスにカンセンする
 ⑤ センキョウ師が来日した

b ハンシャ

- ① シャゲキの腕を上達させる
 ② シヤメンに家屋を建てる
 ③ 新陳タイシャは自然の法則だ
 ④ 材料を念入りにシュシャする
 ⑤ ヨウシャなく弱点を攻める

c カツクウ

- ① 満場の拍手カツサイを浴びる
 ② 機械の作動をジュンカツにする
 ③ ショカツの官庁に問い合わせる
 ④ 群雄カツキョの様相を見せる
 ⑤ ホウカツ的な議論を目指す

問二 傍線部 A 「ここで想定されている「環境」とはどのような環境か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

4

- ① 「環境」と聞いたときに真っ先に思い浮かぶ環境。
- ② 文明化によって破壊し尽くされてしまった環境。
- ③ このまま放置しておいては回復が見込めない環境。
- ④ 企業のセンデンの材料として利用される環境。
- ⑤ 人間という主体が保全すべき対象としての環境。

問三 傍線部 B 「このこと」の指示内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

5

- ① 「環境」という言葉を耳にしたとき私たちは何を連想するだろうかということ。
- ② 環境哲学が想定している「環境」とはそもそも何なのだろうかということ。
- ③ 「環境」とはもともと「何者かにとっての環境」であったはずだということ。
- ④ 実像としての「環境」が「めぐり囲むもの」を指すものだったということ。
- ⑤ ある主体にとって「環境」はどのようなものとして成立しているかということ。

問四 傍線部C「やっつてのける」はマダニのどのようなさまを表現しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① マダニという極小の動物が、巨大な標的を手玉に取りながら生き抜いているさま。
- ② 視覚も聴覚も持ち合わせないマダニが、不利な条件をもともせず狙いに狙いつくさま。
- ③ 知覚のないマダニが、哺乳類に取りつくばかりか、体毛の中にまで大胆に分け入っていくさま。
- ④ 盲目で無音の世界に生きるマダニが、産卵期を迎えた哺乳類の行動まで熟知しているさま。
- ⑤ 哺乳類に寄生して生きるよりほかないマダニが、驚異的な身体能力で視聴覚を補っているさま。

問五 傍線部D「環世界」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 生物は、それぞれの身体に備わる知覚の様式に応じて異なる「世界」を認識し、各々の「世界」を構成している。
- ② 地球にはひとつの「世界」しか存在しないが、地球上の全構成員が同一の「世界」を思い描いているわけではない。
- ③ 微少な生物には身体の大きさに準じた鋭敏な知覚が備わっており、目に見えないミクロの「世界」を織り成している。

- ④ 同じ「世界」でも、マダニが活動する範囲と人間が活動する範囲は異なり、互いにすみ分けをおこなっている。
- ⑤ 生物たちが生きる世界は彼らにとって固有の「世界」であり、人間が感知する「世界」とは異なる点もある。

問六 空欄

I

III

に入る語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

I

8

III

9

I ① 品性 ② 素性 ③ 感性 ④ 本性 ⑤ 理性

III ① ウィークポイント ② ターニングポイント ③ エコポイント

④ チェックポイント ⑤ セットポイント

問七

傍線部E「存在」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

10

① 生物体の生態的特徴が固有の生態環境から生まれた存在。

② 後天的な諸要素をすべて取り除いた存在としての生物体。

③ 生物体に必要な生態環境と「ハビタット」とが同化した存在。

④ 生まれたままの野生の環境で純粹培養された生物体。

⑤ 生物体とその生物種固有の生態環境とが一体化した存在。

問八

傍線部F「普遍的な構造」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

11

① 河川や山地のような「自然環境」を除いて、人間はどんなときでも社会化された環境を生活している。

② 人間に固有な生態環境は、自然と社会という環境の二重性を単一の構造と見なす点に特徴がある。

③ あらゆる人間の「ハビタット」は、「自然環境」と「社会環境」とからなる二重構造を有している。

④ 人間は他の生物種と「ハビタット」としての自然を共有しつつ、これに「社会環境」を加えている。

⑤ 人間と他の生物との決定的な相違点は、二重化された「自然環境」を生活しているかどうかを表れている。

問九 空欄

II

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

12

- ① 「生物」が「人間」になる
- ② 「人間」が「生物」になる
- ③ 「ヒト」が「人間」になる
- ④ 「人間」が「ヒト」になる
- ⑤ 「生物」が「ヒト」になる
- ⑥ 「ヒト」が「生物」になる

問十 傍線部G「人間にとっての環境」の特徴についての説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

13

- ① 「自然環境」と「社会環境」との二重構造を基盤としつつも、前者はさらに「物質的」「非物質的」の二つに分けられる。
- ② 「自然環境」と「社会環境」との二重構造を基盤としつつも、後者はさらに「物質的」「非物質的」の二つに分けられる。
- ③ 人間にとって「環境」の二重構造は不変だが、物質的な部分については人為的に改変させることが可能である。
- ④ 人間にとって「環境」の二重構造は不変だが、非物質的な部分については人為的に改変させることが可能である。
- ⑤ 人間は「環境」の二重構造のなかで、歴史上いかなるときも「社会環境」を媒介としながら「自然環境」に参与してきた。
- ⑥ 人間は「環境」の二重構造のなかで、歴史上いかなるときも「自然環境」を媒介としながら「社会環境」に参与してきた。

問十一 傍線部H「人間が生存の基盤となる食料生産のシステムを自ら大規模に組織化できる」ようになったことの、歴史的な意味とは何か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① 人間と自然との隔たりが拡大して相互が疎外状態になった。
- ② 「自然環境」が「社会環境」にまろごと置き換わった。
- ③ 人間が飢餓を恐れることなく生きることが可能になった。
- ④ 「自然環境」に対する「社会環境」の圧倒的優位が定まった。
- ⑤ 人間が「自然環境」の制約から完全に自由になった。

問十二 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① 「環世界」や「ハビタット」などの概念は、「自然環境」のありかたを考察するときのみ有効である。
- ② 普段私たちが「持続可能性」について考えるときの「環境」は、「社会環境」を指すことが多い。
- ③ 田畑や里山といった「人工生態系」は、実際のところ「自然環境」とはまったく無関係である。
- ④ 社会制度や世界観といった「社会環境」は、非物質的な環境を維持する「歯止め」として機能している。
- ⑤ 化石燃料を基盤にした「社会環境」は、経済成長の論理によって生態系の持続可能性を脅かしている。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

おなじ少将、病にいたうわづらひて、すこしおこたりて内Aにまゐりたりけり。近江あふみの守公忠かみきんただの君、掃部かもんの助すけにて藏人くらうどなりけるころなりけり。その掃部の助にあひていひけるやう、「みだり心地はまだおこたりはてねど、いとむつかしう心もとなくはべればなむまるりつる。のちは知らねど、かくまではべること。まかりいでて、あさてばかりまゐり来むC。よきに奏したまへ」などいひおきてまかでぬ。三日ばかりありて、少将のもとより文ふみをなむおこせたりけるを見れば、

くやしEくそのちにあはむと契りける今日Fをかぎりといはましものを

とのみ書きたり。いとあさましくて、涙をこぼして使ひに問ふ。「いかがものしたまふ」と問へば、使ひも、「いと弱くなりたまひにたり」といひて泣くを聞くに、さらHにえ聞こえず。「みづからただいままゐりて」といひて、里に車とりやりて待つほど、いと心もとなし。近衛このゑの御門みかどにいでたちて、待ちつけて乗りてはせゆく。五条にぞ少将の家あるにいきつきて見れば、いとみじうさわぎのしりて、門かどさしつ。死ぬるなりけり。消息せうそくいひ入るれど、なにのかひなし。いみじう悲しくて、泣く泣くかへりにけり。かくてありけることを、かむIのくだり奏しければ、帝もかぎりなくあはれがりたまひける。

〔『大和物語』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある〕

〔注〕 *少将……………右近少将藤原季繩すえなわ(生年未詳く九一九)。

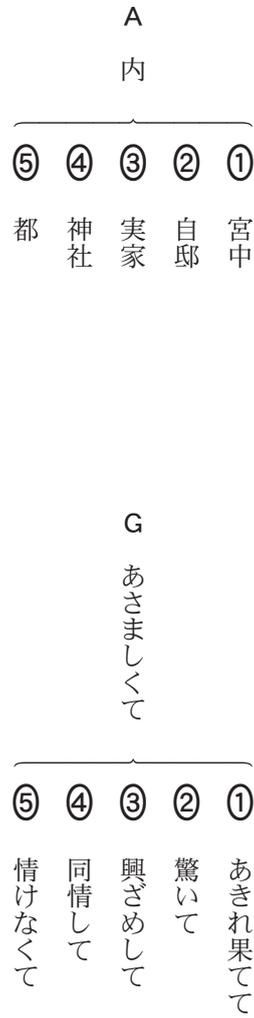
*近江の守公忠の君……………源公忠(八八九く九四八)。

*掃部の助……………掃部寮は宮中の清掃などの仕事をする役所。「助」は次官。

*近衛の御門……………京都御所の東側に面した陽明門のこと。

*かむのくだり……………上述のとおり。

問一 傍線部A「内」、G「あさましくて」の問題文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。



問二 傍線部B「いとむつかしう心もとなくはべればなむまるりつる」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① たいそう不快で落ち着かない気持ちがありますので参りました。
- ② たいそう不安で事情が分かりませんので確かめに参りました。
- ③ たいそう難しく解決しそうになかったので質問に参りました。
- ④ たいそう未熟で頼りない気がしますので手伝いに参りました。
- ⑤ たいそう待たされてじれったいので自分でやって参りました。

問三 傍線部C「来」の読みとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① き
- ② く
- ③ くる
- ④ くれ
- ⑤ こ

A

G

問四 傍線部D「よきに奏したまへ」は、誰が誰に「奏」すのか。最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

20

- ① 「少将」が「公忠の君」に
- ② 「掃部の助」が「公忠の君」に
- ③ 「少将」が「帝」に
- ④ 「公忠の君」が「帝」に
- ⑤ 「掃部の助」が「少将」に
- ⑥ 「帝」が「少将」に

問五 傍線部E「のちにあはむと契りける」と同じ内容を表している部分として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

21

- ① 「のちは知らねど、かくまではべること」
- ② 「あさてばかりまゐり来む」
- ③ 「三日ばかりありて、少将のもとより文をなむおこせたりける」
- ④ 「みづからただいままゐりて」
- ⑤ 「死ぬるなりけり」

問六 傍線部 F「今日をかぎりといはましものを」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 今日が我慢の限界ですと言うつもりだったのに。
- ② 今日が最後のお別れですと言えよかったのに。
- ③ 今日が約束の期限ですと確かに言ったはずなのに。
- ④ 今日を最後に引退しますと言えたらよかったのに。
- ⑤ 今日の間を済ませてほしいと言わせたかったのに。

問七 傍線部 H「さらにえ聞こえず」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 少しも聞き取ることができない。
- ② ほんの少しでも申し上げるつもりはない。
- ③ それ以上のことを聞き取れるはずもない。
- ④ それ以上のことを詳しく聞くわけにもいかない。
- ⑤ それ以上のことを何も申し上げることができない。

問八 傍線部「かむのくだり」の指し示す内容の中に明らかに含まれないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 「近江の守公忠の君、掃部の助にて藏人なりける」
- ② 「まかりいでて、あさてばかりまゐり来む」
- ③ 「三日ばかりありて、少将のもとより文をなむおこせたりける」
- ④ 「五条にぞ少将の家あるにいきつきて見れば」
- ⑤ 「死ぬるなりけり」

24

問九 問題文の内容と最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 重い病にかかった少将は、三日後に手紙を届けるといふ約束を果たした後、亡くなった。
- ② 重い病にかかった少将は、帝に面会を申し入れたが拒まれたため、失意のうちに亡くなった。
- ③ 掃部の助は、少将の家を訪問するため牛車を呼び寄せたが、到着を待ちきれず屋外に出た。
- ④ 公忠は、少将の遺言を使いから聞き、急いで少将のもとに駆けつけたが間に合わなかった。
- ⑤ 公忠は、少将の見舞いに訪れたが、門に鍵がかかっていたため訪問したことを家の者に伝えられなかった。

25

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

どんな場所にも隠れ家はある。学校にも、職場にも、あるいは監獄のように隅から隅まで見通されてしまうようなところだって、よく探せば隠れていられる場所がある。たとえば、屋上だったり、地下室だったり、倉庫だったり。あるいは本棚と本棚の隙間や農場の木々の陰のような、ささやかなものでもいい。人目につかずにいられる場所が、探せばどこかしら見つかる。そういう場所をうまく見つけられると、僕らはつらいときでも「いる」ことができるようになる。クラスに「いる」のがつらければ、屋上に続く階段の踊り場に避難したらいいし、職場でしんどくなったら、喫煙所に逃げ込む。そうやって、みんなから見られない場所に駆け込めば、一瞬気が緩まる。隠れ家は僕らの「いる」を支える。

デイケアにもそういう場所があった。半地下の卓球室がそれだ。卓球はたまにしかしなかったから、その部屋は基本的にいつもガランとしていた。壁はガラス張りになっていたので、本当は部屋の中は外から丸見えなのだけど、電気を消しておくで薄暗いので、なんとなく隠れていられる感じになる。隠れ家で重要なのは、物理的な視覚遮断性より、「なんとなく見えづらい」という雰囲気なのだ。

だから、卓球室は調子の悪いメンバーさんがひっそりと身を寄せる場所だった。A なま デイケアの風の時間、つまり何かと何かの合間の時間、ただ「いる」だけの時間、なんとなく「いられない」感じがしたメンバーさんが、卓球室に避難してくる。そして、奥のソファに腰かけてぼんやりしたり、うたた寝したり、あるいは部屋の隅の壁に体を預けたりしていた。うす暗い卓球室にはもやがかかっている、その不透明さが「いる」を守っていた。B

(中略)

こういう隠れ家のような場所のことを、「アジール」という。アジールとはシンプルに言ってしまうと「避難所」のことだ。逃げ込む場所のことだ。「ア」でも、それだとあまりにぼんやりしているの、もう少しだけ厳密に定義すると、「犯罪者がひたたびその中に入り込むと、それ以上その罪を責めることができなくなる空間」となる。その語源であるギリシヤ語の [asylos]

が「不可侵の、接触不可能な、神々の保護のもとにあつて安全な、十分に安全な」という意味であつたように、アジールに逃げ込めば、罪人は庇護され、安全を確保することができるのだ。「イ」

そういう場所が大昔からいろいろな所に存在していた。たとえば、ヘンスラーという法学者によれば、神殿とか、寺院とか、族長の家とか、聖なる森とか、罪人がそういうところに逃げ込むと、追いかけてくる人はそれ以上追跡することができない。場所だけではない。

I、王様の体に触れたり、聖なるアイテムに触ったりすると、その人は「不可侵」になり、捕まつて罰を受けることがない。「ウ」

これらは「聖なる」場所であるところに特徴がある。ようは神仏のご加護なのだ。アジールは俗世とは違う力が働いている場所なので、俗世の罪を一時棚上げしてもらえる。「エ」「いる」ためには、責められず、傷つけられず、気を緩ますことのできる場所が必要だから、僕らは今もアジールを持っているし、つくり続けている。

(中略)

「アサイラム」とは社会学者のゴッフマンが用いた用語で、「全制的施設」と訳される。ようは収容所とか、刑務所とか、あるいは古い精神病院のように、そこに「いる」人を

II 的に管理する場所のことを言う。「オ」

そこに一歩立ち入ると、番号が付けられる。囚人番号とか、カルテ番号とかなんでもいい。本当の名前を奪われて、管理しやすいように数字が与えられる。それまで着ていた衣服から、囚人服とか、入院着のような皆と同じ衣服に着替えさせられる。個人的属性が奪われるのだ。そして、

II 的なスケジュールを強制される。そういう場所だ。

アサイラムにあつては「いる」が強制される。刑務所はその典型だ。そこから出ていくことが許されない。そのために、高い塀が築かれ、冷たい牢が当てがわれ、脱走につながる不穏な動きをすぐに察知できるように、隅々まで監視と管理が行きわたる。そうやって、自由が奪われる。「いる」が徹底されると、「いる」はつらくなるのだ。

重要なことは、「アサイラム」と「アジール」がもともと同一の言葉であることだ。というか、「アジール Asylum」というドイツ語を英語に訳したのが「アサイラム Asylum」であるように、アジールとアサイラムは

III なのだ。

実際、温泉旅館を思い浮かべてみるとそれがよくわかる。温泉旅館は間違いなくアジールだ。俗世で疲れた僕らは、温泉へと避難する。そこでひと時の安らぎを得ようとしてやってくる。そうやってチェックインを済ませると何が起こるかという、僕らはみんなと同じ浴衣ゆかたに着替えて、部屋番号を渡される。バーコードの入ったプレスレットを渡されることもある。いずれにせよ、その番号によって、温泉旅館にいるあいだの僕らの会計はすべて済まされる。行われていることも

II 的だ。結局のところ、温泉に入り、宴会場で皆と同じものを食べて、飲んで、寝る。温泉旅館は刑務所と同じやり方で運用されている。

アジールとアサイラムでは同じことが行われている。しかし、一方は「いる」を支え、他方は「いる」を強いる。アジールは罪人が逃げ込み庇護される場所で、アサイラムはその罪人を閉じ込めて管理しておく場所だ。

精神科病院は過去にアサイラムだった。ここでは苛烈な管理がなされ、人権が侵害された。そのことが批判されたことで、患者さんの退院が奨励され、地域で生きていくことが目指された。だけど、地域で生きるのはつらい。そのときに避難所として出現したのがデイケアだった。デイケアは地域で生きる患者さんの居場所になり、アジールとなった。だけど、それがふたたびアサイラムに頽落たいたらくしてしまうことがある。それがブラックデイケアだ。

IV、ブラックデイケアが一部の悪質な人間が引き起こす他人事なのかと言うと、そうではない。それはデイケアというものの本質に内在したものだと思う。というのも、実際のところデイケアは、メンバーさんが「いる」ことが収入になる、というビジネスモデルで成り立っているからだ。

デイケアでは一日メンバーさんが「いる」ことで、一人あたり数千円から一万円近い収入が入ることになっている。安定して、デイケアに「いる」メンバーさんが増えれば、病院の経営は安定する。彼らが出ていってしまうと、収益は減ってしまう。

V、デイケアでの「いる」はつねに二重性を帯びている。一方で「いる」はケアとして支えられるものであるけれど、もう一方では「いる」は経済的収益源でもある。それはデイケアに限らず、さまざまなケアする施設で生じている二重性だと思ふ。

E この二重性の後者が強調されるときに、デイケアはアサイラムになる。アジールは容易にアサイラムへと頽落する。「いる」

を支え、庇護する空間は、「いる」を強制し、監視する空間へと変貌する。すると「いる」のがつらい場所になる。ブラックなもの場所になる。「いる」ために「いる」ことは悪夢と化す。デイケアはつねにアサイラムへと頹落する種子を抱えている。
(東畑開人『居るのはつらいよ——ケアとセラピーについての覚書』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *デイケア……在宅の高齢者・障害者を一時的に預かり、リハビリテーションや日常生活の世話などを行うサービス。または、その施設。

*ブラック……多く複合語の形で用い、置かれている環境が劣悪で非人道的なさまを指す。「ブラック企業」「ブラックバイト」など。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

おもしろいのは、そういう神仏の力が失われた現代にあっても、アジールが消えることがなかったことだ。

- ① 「ア」 ② 「イ」 ③ 「ウ」 ④ 「エ」 ⑤ 「オ」

問二 傍線部A「デイケアの風の時間」とは、どのような時間のことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① デイケアサービスから解放された後。
- ② デイケアサービスの一時的な小休止。
- ③ デイケアサービスに人々がいない間。
- ④ デイケア施設が使われていない期間。
- ⑤ デイケア施設の中が静かになった頃。

27

問三 傍線部B「その不透明さが「いる」を守っていた」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 薄暗く外から見えづらい卓球室は、人々の間で過ごすことに疲れた際の居場所として機能していたということ。
- ② 人目につきにくい卓球室は、デイケアの合間に人々が体を休めるための休憩所になっていたということ。
- ③ 隠れ家のような卓球室は、施設の従業員から離れて落ち着いて休むことができる空間であったということ。
- ④ 活動の場ではない卓球室は、誰にも断ることなく自由に遊ぶことができる避難所であったということ。
- ⑤ 自然に人が集まる卓球室は、そこにいてもいいという自己肯定感を高めてくれる場所であるということ。

28

問四 空欄

I . IV . V

つ選べ。

に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、①～⑥のうちから一

① I たとえば IV そもそも V にもかかわらず

② I たとえば IV しかし V だから

③ I たとえば IV しかし V にもかかわらず

④ I つまりは IV そもそも V にもかかわらず

⑤ I つまりは IV そもそも V だから

⑥ I つまりは IV しかし V だから

問五 空欄

II に共通して入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 暴力 ② 集団 ③ 平均 ④ 画一 ⑤ 受動

30

問六

傍線部C「いる」が徹底されると、「いる」はつらくなるのだ」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

31

① 「いる」ことを強いる空間は、かつてアジールと呼ばれていた避難所の姿を変えた現れであるということ。

② 「いる」ことを強いる空間は、医療施設や刑務所のように俗世とは異なる場所を形成しているということ。

③ 「いる」ことを強いる空間は、アジールが有していた居場所としての寛容さが損なわれているということ。

④ 「いる」ことが可能な空間であれば、徹底的な管理が行われたとしても居場所としてはかろうじて意義を持つという

こと。

⑤ 「いる」ことが可能な空間であっても、その場所の聖なる力がなくなれば「いる」とは言えなくなってしまうという

こと。

問七 空欄

III

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 千差万別
- ② 玉石混交
- ③ 一長一短
- ④ 付和雷同
- ⑤ 表裏一体

32

問八

傍線部D「温泉旅館は刑務所と同じやり方で運用されている」とあるが、その具体的な説明として適当なものを、次の

- ①～⑤のうちから一つ選べ。

33

- ① 刑務所は人々の効率的な管理を目的とするが、それを応用したのがアジールとしての温泉旅館であること。
- ② 刑務所も温泉旅館も、個性が剝奪された番号によって人間を管理しているという面では同じであるということ。
- ③ 刑務所と温泉旅館は、どちらも巧妙にシステム化された現代のアサイラムとしての空間に他ならないということ。
- ④ 刑務所と温泉旅館の違いは訪れた人の心の持ちよう次第であり、機能的にはどちらの空間も同一であるということ。
- ⑤ 温泉旅館は普段の生活で疲れた人々の避難所であるが、刑務所も俗世から離れた場という意味で相似しているとい

うこと。

問九 傍線部E「この二重性の後者が強調されるときに、デイケアはアサイラムになる」とはどういうことか。その説明として

最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

34

- ① デイケアとブラックデイケアを切り離すことができないのがデイケアの二重性であり、そのビジネスモデルを続けるかぎりアジールはいつでもアサイラムになる可能性を秘めているということ。
- ② アジールの提供が経済的利益に直結してしまうのがデイケアの二重性であり、その利益のために「いる」を強制してしまえばその場所もはやアサイラムになってしまうということ。
- ③ 精神科病院のイメージをアジールに塗り替えようとしているのがデイケアの二重性であるが、今でもアサイラムとしての性格は払拭されずに残り続けているということ。
- ④ 精神科病院が人権を侵害していた反省から生まれたのが地域に根ざしたデイケアであるが、避難所を提供しようというその活動も結局は人権侵害に陥る危険性をいまだに残してしまっているということ。
- ⑤ 人々の居場所を提供するのがデイケアであるが、それが俗世間から離れたアジールであるならば人目につかない場所として次第にブラックなものへと変質してしまう可能性があるということ。

問十 問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ(マークする選択肢番号の順序は問わない)。

① 学校や職場や監獄などのさまざまな環境下での「いる」ことを支えているのは、隠れ家のような外から物理的に視覚を遮断した空間である。

35

36

② 大昔、神殿や寺院などの聖性と結びついたアジールの空間に入り込めばもはやその人は罪から生涯解放されてしまうと考えられていた。

③ アジールという英語をドイツ語に訳して成立したのがアサイラムという言葉であるので、両者は実のところほとんど同じである。

④ 精神科病院はかつてはアサイラムであったが、そのような性格が批判され、患者が地域で生きるための避難所としてデイケアが登場した。

⑤ ブラックデイケアは精神科病院にかかわる一部の悪質な人間によって引き起こされるものであり、そのことが近年問題視されるようになった。

⑥ 「いる」ことを金銭が介在したビジネスモデルとして成り立たせようとすると、デイケアは容易にアサイラムへと変容してしまう。

2025年度 入学試験問題

一般入試 後期

3月8日

第1限

国

語

〔現代の国語、言語文化（漢文除く）、
論理国語、古典探究（漢文除く）〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は20ページである。
- 3 解答番号は1から34までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ここではまず、町を気に入ってもらおうということは一体どういうことなのかを考えてみよう。人間というのは時間とともに、いろいろなタイプの生活者であることをヘンレキする。例えば、一五歳と四五歳と七五歳の大月君は、同じDNAをもち、同じ名前で呼ばれ、同じ戸籍に登録されながら生きているには違いないが、年齢によってその生態がかなり異なることは容易に想像がつくだろう。もちろんその時々で、住宅への要望や住宅をとりまく町に対する要望が、かなり異なってくるのである。

例えば、一五歳の大月君はプライベートの高い部屋を望んでいる。あまり親に干渉されたくないのに、ダイニングにもリビングにもあまり顔を出さない。そのかわり、学校の帰りに寄り道できるゲームセンターやコンビニ、いろいろな都会的な商品を豊富にそろえているお店や、多少遅くまで遊んでも怒られない友達の家といった環境を、町に欲している。

例えば、四五歳の大月君がほしい住宅は、女房子どもから干渉されない書斎があることだ。でも、子どもには自分の部屋に引きこもってほしくはない。そのかわり、ダイニングやリビングは家族でにぎわっていてほしい。たまに、自分で釣ってきた魚を料理して、人でも呼んで振る舞ってみたい。町には、ちょっと一杯ひっかけることのできる馴染みの赤提灯*あかちょうちんがあれば素敵だ。あるいは休みの日に、一人でほっとできる気の利いた喫茶店があればなおよい。

例えば、七五歳の大月君は、そろそろ体がいうことをきかなくなってきた。住宅が広いと掃除も大変だけど、狭くていろいろなモノが転がっていると転倒の危険がある。部屋もモノも整理してコンパクトを心掛けなければならない。そして人間関係も、そろそろコンパクト化しなければならないかもしれない。でも、娘がたまに孫を連れて遊びに来るときに、思いつきはしゃいでもらえるような部屋の広さは必要だ。家の外は静かな方がいい。歩いていける図書館などがあって、朝はのんびりそこで新聞など読んで、顔見知りの人と少しだけ世間話をして、帰りに気の利いた喫茶店にでも寄って帰ることができればいい。そして、自分や妻に何かあったとき困らないような、安心な病院、サ高住、有料老人ホーム、特養が、一通りそろった町になってくれれば安心なのだ。

こんなふうには、同じDNAをもった人間でも、年頃に応じて、住宅や町へ要望することはころころと変わるものである。住宅や町は、このように大変わがままにヘンレキする人間の要求の変化を、タイミングよく受け入れなければならぬ。

住宅については、増築したり、リフォームしたり、引っ越ししたりして、自分の要求に近いところにもっていくことができる。しかし、町の方は、基本的には引っ越ししなければ、自分のニーズには合わない。ただ、「住めば都^A」という言葉があるように、一つ所に我慢せずと住んでいけば、だんだんと町の環境に、自分のニーズがシンクロしてくる場合もあるだろう。これは、人間の方が町の環境に適応していくという側面もあるだろうが、逆に、町の方が時間をかけて人間の要求に合わせて変化してくるという側面もあるのではないだろうか。時とともに、町がそこに住む人びとのニーズの変化に応じて変わってくれることだっでありうる。あるいは、行政にそれを要望して、時間をかけて実現する場合もあるかもしれない。

最初から町が多様な種類の人間によって住まわれていけば、その町はそれぞれの年頃の人に対して多様なニーズに応えざるを得ないのだろうが、新規開発された多くの住宅地ではそれは望めない。そうした町は必ず「三五歳と生まれたて^B」の要求を満たすようにつくられる。もっといってしまえば、彼らの要求のみを満たすようにつくられるのが普通である。

ただ、居住者たちが歳を重ねていくにつれ、町に要求される事柄も変化する。このことを通じて、町も少しずつ変わっていくということもある。ここで居住者のニーズが多様に変化することができれば、町も多様なニーズに応えるように歳を重ねるに違いないが、Iの住宅地では、居住者のニーズが変わっても、それはニーズのピークがシフトするだけである。わかりやすい例でいえば、町がはじめた当初は、保育園だの小学校だのが足りないが、三〇年もすれば、学校は統廃合され、空きビルとなる一方で、高齢者サービス施設が足りなくなるといった現象にしかならないのである。

こうした意味でも、町自体が多様化するように歳を重ねるためには、居住者自身のゾクセイも多様化しなければならぬし、もしこうしたことが望めないなら、その町はその支配的な年齢層以外の人びとのニーズを受け入れられずに、滅びていくことになりかねない。

逆に、そこで時間を重ねて変化していく人びとの多様なニーズを丁寧^Cに受け止めながら町が成長していくことができれば、そ

の町は「生活の薬箱」ともいえるような環境となるだろう。

人間は生活上の課題を、いろいろな方法で解きながら、日々の生活を送っている。時にはその課題を、町がもっている機能で解決してくれることもあるだろう。例えば、一五歳の大月君にコンビニやゲームセンターを提供してくれたたり、四五歳の大月君にほっと息のつける赤提灯を提供してくれたたり、七五歳の大月君には毎朝寄れる図書館を提供してくれたたりすることだっただろう。娘夫婦が孫を連れて近くに移り住んでくれるのも、歳老いて何かあったときに安心なサービスが提供されるのも、町がもっている機能によって生活課題を解くのを手伝ってくれているからだとも考えることができるだろう。

人は町の中の空間や町に住む人びとの中に、ある種の **Ⅱ** を発見して、それを利用しながら自らの生活課題を解決していく体験を積んでいく。そうやって長年、町に助けられながら暮らしている人びとにとっては、「そういうときにはここに行くもんだ」とか、「そういうときには誰々さんに相談すれば解決するんだ」というような、解決のための薬が町のあちこちに点在していることが体得されてくる。ある人にとって、時間をかけて町全体が **Ⅲ** 薬箱のような存在になること、そのことをもって、我々は「住めば都」と表現するのだろう。

ところで、四五歳の大月君がほっと一息つける赤提灯は、どのように発見されるのだろうか。その店が四五歳の大月君にとってベストの赤提灯だということは、ネットのお店ランキングなどには載ってはいない。通常、似たようなお店をシコウ錯誤して、何回も通いながら、ここは自分の薬だと思える場所を発見するわけだ。そうした意味では、発見というよりも **Ⅳ** に近いかもしれない。店の常連客的な立場を獲得するためには、店主にとっても、よい馴染みの客として振る舞わねばならない。よい常連客としての振る舞い方も、何回も通いながら、少しずつ身につけなければならぬ。

また、この赤提灯だけが、四五歳の大月君の唯一のほっとできる場所であるとするならば、それはまた寂しいことかもしれない。たまに家族と行く居酒屋や、遠くから来た親友を連れていくためのバーも、ちよつとのを潤すだけの立ち飲み屋もあった方がよい。その時々々の症状に応じて、さまざまな薬がシヨホウされるような町が、四五歳の大月君にとっては、いい町に違いない。だが、そうした町は四五歳の大月君とその同年配だけの活動のみによって形成されるものではない。町にいろいろな人がう

ごめきながら、それぞれが訴える症状を少しずつ緩和する店々がラインアップされてこそ、多様な人びとにとっての薬箱と思える町が出来上がるのであろう。

このようにして、ある人にとってその町が薬箱のように見えてくると、今住んでいる住宅に不具合があつて、引越さねばならない事態になつたとしても、なるべくこの薬箱を手放さないようにしたくなるに違いない。当然、この町に住んでいる見知つた人びととのつながりも含めての薬箱なわけだから、住宅に不具合があるだけだったら、近所に引越せばいいということになる。また、この町が自分の薬箱のように思えるまでに、自分がこの町に費やした時間とエネルギーは莫大だ。しかも、その時間のチクセキはそのまま町での暮らしの思い出でもある。

こういうこともあり、この町が「住めば都」的に思えてくると、家族や親類や友達までをも呼んで、「そんなんだつたらこの近くに引越せばいいよ。いい物件見つけてやるよ」といった具合になつて、近居が増えてくるようになり、さらにこの町を離れ難いものとしていくのであろう。こうして町は、居続けたいと思つた人びとによって、時間をかけて拠点化されていくのである。そうして拠点化された結果、この町を人びとは「地元」と呼ぶようになる。

だが、すべての人びとが町を拠点化するわけではないし、町を拠点化した人びとが偉いわけでも何でもない。経験的にいうと、ざっくり一割から三割程度の人びとが、その町を意識的に、また無意識的に拠点化しようと感じているのではないかと思う。じつはこの数値、いろいろな地域で近居を実践している人びとの割合に近い。どんな地域でも、そこを拠点化してもいいなと思つている人と、そうでもない人は一定割合いるものだ。もちろん、泣く泣く拠点を離れなければならない人もいるだろうし、一刻も早く引越したいのだが、なかなかその道が開けずに困っている人もいるだろう。

このように、「町を拠点化」というのは、ある一定割合の人びとの、ゆるい定住現象を説明するためのキャッチフレーズでもある。逆にいえば、住民から拠点化もされないような町では、町の持続性の観点から困つたことになつてしまう。したがつて、このフレーズは、そこに居続けて町を育てる責務を負いつけている行政の仕事のためにも、有効だと思つている。

新規住宅地ならば、せめて一割から三割くらいまでの人びとが、その町を拠点化しようと思つような町を目指すことが、今後

の町づくり変えにとつての重要なテーマの一つとなるのではないだろうか。

(大月敏雄^{おおつきとしお}『町を住みこなす』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

〔注〕 *赤提灯……安い料金で客に酒を飲ませる店のこと。

*サ高住……サービス付き高齢者住宅のこと。

*特養……特別養護老人ホームのこと。

問一 傍線部 a、e と同一の漢字を使うものを、次の各群の ①～⑤ のうちからそれぞれ一つ選べ。

- a b c d e

a ヘンレキ

- ① 社会のヘンケン
 ② 領土のヘンカン
 ③ ヘンロ姿の旅人
 ④ ヘンキヨウの地
 ⑤ 交響楽のヘンキョク

b ゾクセイ

- ① コクゾクの汚名をすすぐ
 ② キゾクのような生活
 ③ フウゾクの研究
 ④ 遺産のソウゾク
 ⑤ キンゾクの元素記号

c シコウ錯誤

- ① コウコク代理店
 ② 条例のシコウ
 ③ ガイコウ問題に発展する
 ④ オンコウな性格
 ⑤ 東京キンコウの町

d ショホウ

- ① 品行ホウセイな人
 ② 庭にホウスイする
 ③ 壁面がホウラクする
 ④ ホウヨウ力のある人
 ⑤ 友人のライホウ

e チクセキ

- ① クチク艦を配備する
 ② チクゼン煮を食べる
 ③ チクサン農家
 ④ チクザイに励む
 ⑤ チクバの友

問一 傍線部A「住めば都」とあるが、その説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① 住み続けていると、その場所の生活環境に自分の生活要求が次第に合致してくるようになる。
- ② 住み続けていると、自分の方が次第に変化し、その町の環境に適応していくようになる。
- ③ 住み続けていると、町の方が住人の要求に合わせてそれにふさわしく変化していくようになる。
- ④ 住み続けていると、自分にとって住むのにふさわしい場所はそこしかないと考えようになる。
- ⑤ 住み続けていると、行政の方が人々の要求に対応し、それを実現してくれるようになる。

問二 傍線部B「新規開発された多くの住宅地ではそれは望めない」のはなぜか。その理由として最も**適当なもの**を、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 新規開発された多くの住宅地はその住人の多くが同世代であり、家族構成も似たような人々ばかりだから。
- ② 新規開発された多くの住宅地では住民どうしの関係性が薄く、町としてはまだまだ完成していないから。
- ③ 新規開発された多くの住宅地はどの家も同じような建物であり、建物として各家の特色がみられないから。
- ④ 新規開発された多くの住宅地の立地はどこも同じようなものであり、多様なニーズに応えようがないから。
- ⑤ 新規開発された多くの住宅地も年月がたつと建物が老朽化するため、その場所を離れる住民が増えるから。

問四 空欄 I に入る語として最も**適当なもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

8

- ① エコスタイル
- ② フルカラー
- ③ モノトーン
- ④ ローコスト
- ⑤ ハイクラス

問五 傍線部C「その町は「生活の薬箱」ともいえるような環境となるだろう」とあるが、これはどのような意味か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 自分が暮らす町の中に、日々の生活をおくるうえでさまざまな便利な機能が備わってくる。
- ② 長年住み続けていくことによって、町の中にさまざまな人間関係が出来上がってくる。
- ③ 長年暮らすうちに、自分の町の中に自分を癒してくれるさまざまな店や場所が見つかる。
- ④ 町のあちこちに薬局があり、いつでも相談に乗ってくれて薬の購入には困らないようになる。
- ⑤ 長年暮らすことで、町の中に生活上のさまざまな問題を解決してくれる要素が見つかる。

問六 空欄 II に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 階層
- ② 方法
- ③ 愛情
- ④ 資源
- ⑤ 同類

問七 空欄 III に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① なるほど
- ② あたかも
- ③ よしんば
- ④ おそらく
- ⑤ だいたい

問八 空欄 IV に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 研究の成果
- ② 偶然の出会い
- ③ 関係性の構築
- ④ 投資による利益
- ⑤ 妥協の産物

問九 傍線部D「町を拠点化する」とはどのような意味か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① そこに住みつづけることで人間関係や生活の環境を整え、そこを離れたいものにしていくこと。
- ② 長い時間をかけて暮らしているうちに町のあちこちに友人ができ、立ち寄る場所が増えること。
- ③ 何をするにしても自分が暮らす町を、その行動や思考の起点として考えるようになるということ。
- ④ 親類や友人が近くに住むようになって、その町を自分にとっての終ついの棲家すみかと考えるようになること。
- ⑤ 自分の生活のすべてをその町の中で完結させ、町を自分にとって都合のよい場所に変えていくこと。

13

問十 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 町というものは長年住み続けている人々をその環境に適応させていく力をもつ。
- ② 生活していくうえで便利な点を次々に付加していくことが定住への条件である。
- ③ 居住している人々にとっては最初からさまざまな条件を備えている町が望ましい。
- ④ 町は住み続けていくことでその機能が少しずつ変化していくという性質を備えている。
- ⑤ そこに住む人すべての要求を備えた町は現実には存在しえないものである。

14

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

父帝ちちみかどうせおはしましてのち、いまだ位につきたまはざりしほどに、葦田宿禰あしたのすくねのむすめ黒媛くろひめといひし人を、きさきとせんとおぼして、御弟おとこの住吉仲皇子すみのえのなかつみこをつかはして、その日おはすべきよしおほせられしに、この皇子わが名をかくして、東宮aのおはするさまにもてなして、このひめ君にしたしきさまになんりにける。さてもちたりつる鈴すずをわすれてかへりにけり。そのつぎの夜、東宮、ひめ君のもとへおはしたるに、あたまへるかたはらに、鈴のありければ、あやしくおぼして、ひめ君にとひ

I ければ、「これこそはよへもおはしたりし鈴よ。」とのたまふに、東宮、われとなのりて、皇子のちかづきたまひにけるにこそ、とおぼして、かへりたまひにけり。

皇子、この事を東宮ききたまひぬらん、わが身たひらかならんことかたかるべし、とおもほして、東宮をかたぶけたてまつらんとばかりて、兵つはものをおこして、宮をかこみしをり、大臣たち東宮に、「かかる事はべり。」とつげたてまつりしに、いふかひなくゑひたまひて、おどろきたまはざりしかば、大臣たち、この東宮をむまにかきのせたてまつりて、にげはべりにき。皇子この事をしらずして、宮に火をつけてやきてき。これは津つの国の難波ななはの宮なり。東宮、大和の国におはして、ゑひさめたまひて、「これはいづれのところぞ。」ととひたまひしかば、大臣たち、ことのあるさまを申したまひき。さて、石上いそのかみの宮におはしつきたりしに、又またの御弟みづはのみこに瑞齒皇子みづはのみこと申しし人いそぎまゐりたまへりしをうたがひたまひて、あひたまはざりしかば、この皇子「われにおきてはさらにおなじ心にはべらず。」と申したまひしかば、「しからば、かの住吉仲皇子をころしてのちにきたるべし。」とのたまはせしかば、この瑞齒皇子、すなはち難波にかへりて、

II のちかくつかひたまひし人をかたらひて、「わがいはん事にしたがひたらば、われ位をたもたんととき、なんぢを大臣になさん。」とのたまひしかば、「いかにもおほせにしたがふべし。」と申ししかば、おほくのものどもをたまひて、「しからばなんぢが主しゅをころして、われにえさすべし。」とのたまふに、そのことにしたがひて、主の皇子のかはやにおはするをほこをもちてさしころしてき。

『水鏡』による

問一 傍線部 a 「東宮のおはするさまにもてなして」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① 東宮のお住まいに似た風情のところに招待して
- ② 東宮がおいでくださるように皇子を接待して
- ③ 東宮でいらつしやるご様子を見て歓迎して
- ④ 東宮がいらつしやったようにふるまって
- ⑤ 東宮とご一緒であるようなふりをして

問二

空欄

I

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

- ① たてまつりたまひ
- ② たてまつりはべり
- ③ たてまつり
- ④ たまひはべり
- ⑤ はべり

問三

傍線部 b 「べし」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

17

- ① 意志
- ② 可能
- ③ 推量
- ④ 伝聞
- ⑤ 命令

問四

傍線部 c 「いふかひなく」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

18

- ① ほんの少し
- ② やけになって
- ③ おもしろくなく
- ④ どうしようもなく
- ⑤ 死ぬほど苦しそうに

問五 傍線部 d 「大臣たち、ことのありつるさまを申したまひき」とあるが、大臣たちが話した内容として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 東宮の泥酔中に住吉仲皇子の軍の攻撃をうけたこと。
- ② 東宮が実は冷静沈着であったこと。
- ③ 自分たちが東宮を背負って歩いてきたこと。
- ④ 現在いるところが難波の宮であること。
- ⑤ 瑞齒皇子が難波の宮の焼き討ちに加わっていたらしいこと。

19

問六 傍線部 e 「さらにおなじ心にはべらず」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 新たに心を同じくお仕えることはございません
- ② あらためて、賛同いたしかねます
- ③ ますます心を同じくお仕えることはできません
- ④ 完全に同じ考えというわけではございません
- ⑤ まったく心を同じくしてはおりません

20

問七 空欄 II に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 父帝
- ② 東宮
- ③ ひめ君
- ④ 瑞齒皇子
- ⑤ 住吉仲皇子

21

問八 問題文の内容に合致する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 住吉仲皇子は兄をさしおいて天皇となるために、まず黒媛を味方につけようとした。
- ② 東宮に鈴のことをきかれたとき、黒媛は自分がだまされたとは気づいていなかった。
- ③ 難波の宮で死ぬことを覚悟していた東宮を、大臣たちが機転をきかせて救い出した。
- ④ 東宮が難波の宮から無事脱出できたのは、酒に酔ったふりをしていたからであった。
- ⑤ 瑞齒皇子は本心を東宮に見破られてしまったため、住吉仲皇子を裏切ることにした。

問九 問題文の直後につづく話として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 黒媛が瑞齒皇子に引き渡され、そのきさきとなった。
- ② 瑞齒皇子の報告を受けた東宮が宴会をひらいた。
- ③ 住吉仲皇子と瑞齒皇子とが天皇の位を争った。
- ④ 瑞齒皇子が大和の国で即位し、大臣を任命した。
- ⑤ 住吉仲皇子が難波で即位し、黒媛をきさきに立てた。

問十 問題文とよく似た話が、舎人親王^{とねり}らによって編纂^{へんさん}された歴史書に出てくる。その書名として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

- ① 『古事記』
- ② 『風土記』
- ③ 『日本書紀』
- ④ 『栄花物語』
- ⑤ 『大鏡』

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

思想家の柄谷行人^{からたじろうじん}は、作家菊池寛^{きくちかん}の人生と彼の『入れ札』という小説から話を起こして、くじ引き民主主義が意味するところを考察している(『日本精神分析』)。彼は、普通選挙によって無記名投票(Ⅱ入れ札)が当たり前になった時点で、代表制民主主義は機能しなくなる、という。なぜなら、無記名だと、誰が誰に投票したのかがわからなくなり、代表する者(Ⅱ政治家)と代表される者(Ⅱ有権者)との関係が曖昧になるため、政治家は選挙区の代表ではなく、国民全体の代表だとされることになるからだ。しかし、これでは、誰が自分を代表しているのかが不明瞭になる。ここから、秘密投票と無記名投票こそが代表制民主主義を機能させなくなる、という逆説^Cが浮かび上がる。^{*}一九世紀半ばのフランスやワイマール時代のドイツのように、普通選挙が当たり前になった時代に、自分たちこそが国民を代表する、という反議会主義的な勢力が力を持つ道理である。(Ⅱア)

彼がこれに代わって推挙するのが、古代アテネで行われていたように、くじで行政職や司法職を宛^{あて}がう、くじ引き民主主義である。秘密投票のもとでは、誰が誰に投票するかわからないために、有権者が候補者をゆすったり、逆に候補者が有権者を買収したりするようなことも起こり得る。しかし、くじ引きであれば、偶然によってその人が選ばれるわけだから、そうしたことは起こり得ないということになる。あるいは、三権分立のように、複雑な制度上の仕組みを用意しなくとも、I、権力に対するチェック・アンド・バランスは、恒常的に機能することになるのだ。(Ⅱイ)

もちろん、柄谷は古代アテネに回帰すべきだと唱えているわけではない。そこでは市民権を持たない奴隷や女性がいなかったからこそ、成人男性が公的な活動に勤^{いそ}むことができたからだし、職業には向き不向きがあることも事実だからだ。そこで彼が提案するのは、既存の選挙とくじ引きを併用する案だ。具体的には選挙によって^{あらかじめ}予め優秀な集団を選出した後に、その集団のトップをくじ引きで選ぶという手法だ。(Ⅱウ)

さて、柄谷行人のくじ引きについての議論を参照しながら、やはりくじ引きを重視するのは社会学者の大澤真幸^{おおさわまさゆき}だ。彼は、普遍的価値が消失したことで分断と対立が支配する現代において、公共性を再建する手段として、くじ引き民主主義の可能性を

探っている。〔H〕

一般的に民主的に物事を決定するためには、話し合いと投票という手段が想定される。しかし話し合いは、それがいかに理性的なものであっても（あるいは理性的であればあるほど）、合意を導き出すことが期待されているため、そもそも合意の前提に反対している人たちに決定の場に参加してもらうことは難しい。例えば、ランチに何を食べるかを話し合いで決めるとして、ダイエツトのためにランチなしで済ませたいと考えている人たちには関係がないことになる。では、ランチをとるかどうかを話し合いで決めるとしても、いずれの結果でもお腹なかの空すいてしまう人、太ってしまう人が出てきてしまう。だから討論による決定は万能ではない、ということになる。〔オ〕

では、投票による決定という手段はどうだろうか。投票で決めるということは、簡単にいえば多数決で決定するというところから、全会一致でない限り（しかし全会一致が見込めるなら、そもそも投票の必要もない）、少数派が必ず生まれてしまうことになる。そして少数派が多数派の決定を受け入れる用意がないのであれば、逆に社会では分断が生まれてしまうことになる。

大澤が話し合いと投票に對置するのが、くじ引きだ。現代社会では、なぜ対立と分断が絶えないのか。それは、各人が共有することのできる共通の権威が存在しないため、個々人が抱えこまざるを得ない

II

からだ。簡単に言うと、「なぜ自

分だけが「どうして私が」という事態に理不尽さしか感じられないようになってきているのだ。もともと、公共性とは、「私は他人でもあり得る」という、立場互換性がなければ存在し得ない。いじめをなくすためには、いじめる側がいじめられる側になるかもしれない、という想像力を持たなければならない。だから、くじ引きという偶然性を意思決定のための手段として採用することで、人は自らの不安の根源となっている偶発性を自発的に引き受け、その不安を自らの手で克服することができるはず、というのが大澤の発案につながっている。

III

、という感覚を取り戻すことで、人は想像力を持つことができるということだろう。

異なる次元の話をしつつも、柄谷と大澤の議論に共通するのは、必然でもって成り立つことが自明視されている世界に、くじ引きという偶然の手段を持ち込むことで、風通しのよい、開かれた世界を呼びかけていることにある。

くじ引き民主主義のみならず、くじ引きでもって選び、選ばれること自体に抵抗感があるとしたら、それが自分や他人の実力や能力を測る物差しにならないからだろう。選挙で当選する、受験で合格する、何らかの役職に就いたといった結果は、単なる偶然ではなくて、自分の能力が認められたから、これまで頑張ってきた努力が報われた結果だ、と人は思いたいはずだ。努力があるから報酬が与えられ、報酬があるから努力する、という循環に馴染まなくくじ引きは、そうした意味で心理的な抵抗を覚えるかもしれない。

しかし、人生や世の中は偶然と無縁ではいられない。努力が報われたとして、それはその人の能力だけに帰せられるものではなく、その人が選択することのできない環境と条件(時代、国、地域、家庭、遺伝子、人間関係などに大きく左右される。最近でいえば「○○ガチャ」という言葉に象徴されるように、だ。また、人の能力がその資質だけでなく、受け継いだ様々な資本に大きく左右されるというのは、心理学や社会学では常識になっている。アメリカの研究では、貧困地域から裕福な地域に引っ越しをするだけで、子どもの生涯年収が一割ほど変化するとの試算もある。しかし居住地を変えるような自由は、皆が行使できるわけではない。

「機会の平等」さえもが不均等に配分されている現代にあつて、人智^ちでもってこの平等を取り戻そうというのがくじ引きの役割である。

(吉田徹^{よしだとむる} 『くじ引き民主主義』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある)

[注] * 一九世紀半ばのフランスやワイマール時代のドイツ……ともに普通選挙が実施された後、新政府に失望した市民・労働者階級は、反議会主義的な勢力を強力に支持した。

* 「○○ガチャ」……………自分の意志や能力でコントロールできない要素で人生が決まることを意味する俗語。

問一 問題文からは次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

25

こうすれば、職務をやりたい人や職務に関心がある人がプールされ、その後の序列は偶然に任され、結果として無益な権力闘争や間違った自尊心を呼び起こすこともなくなる、というわけだ。

- ① [ア] ② [イ] ③ [ウ] ④ [エ] ⑤ [オ]

問二 傍線部 A 「作家菊池寛」は芥川龍之介賞を創設したことで知られている。芥川龍之介の作品名として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

- ① 檸檬 れもん ② 歯車 ③ 舞姫 ④ 道草 ⑤ 破戒

問三 傍線部 B 「秘密投票と無記名投票こそが代表制民主主義を機能させなくなる」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 議会における政治家は自分勝手に行動をするようになり、それに対抗するために大統領制が導入される。
② 選挙権年齢の引き下げにより、議会政治への意識が低い有権者であっても容易に政治参加できてしまうようになる。
③ 議会政治を行うと政治家は有権者の個別の意向を常に意識してしまうので、大局的な政策を行うことができなくなる。
④ 小選挙区制であれば有権者の議会政治への責任は明確になるのに、大選挙区制にするとその責任の所在が曖昧になる。
⑤ 議会の政治家を有権者の代表とは思えなくなった結果、反議会主義的な勢力が自分を代表してくれると思うようになる。

問四 傍線部C「逆説」と同じ意味のことばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① パラドックス
- ② メタファー
- ③ コンテキスト
- ④ ロジック
- ⑤ イデオロギー

問五 空欄 I に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 権力を持つ者同士が監視しあうから
- ② 権力が同じ所に留まることはないから
- ③ 権力の範囲が制限されるから
- ④ 権力に伴う利権が解消されるから
- ⑤ 権力はそもそも天与のものだから

問六 傍線部D「合意の前提に反対している人たち」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

30

- ① ランチを食べるか食べないかという話し合いの場における、ランチを食べると考えている人たち。
- ② ランチを食べるか食べないかという話し合いの場における、ランチを食べないと考えている人たち。
- ③ ランチを食べるか食べないかという話し合いの場における、どちらでもいいと考えている人たち。
- ④ ランチを和食にするか洋食にするかという話し合いの場における、中華料理を食べたいと考えている人たち。
- ⑤ ランチを和食にするか洋食にするかという話し合いの場における、ランチを食べないと考えている人たち。
- ⑥ ランチを和食にするか洋食にするかという話し合いの場における、どちらも食べたいと考えている人たち。

問七 空欄

Ⅱ

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 偶然性や偶発性に耐えることができなくなっている
- ② 偶然性や偶発性を感じることができなくなっている
- ③ 偶然性や偶発性に多大な関心を示すようになっていく
- ④ 偶然性や偶発性を大切なものとして考えなくなっている
- ⑤ 偶然性や偶発性に楽しみを見出すようになっていく

31

問八 空欄

Ⅲ

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① ときどき
- ② しばしば
- ③ たまたま
- ④ くるくる
- ⑤ いよいよ

32

問九 傍線部E「柄谷と大澤の議論」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

33

- ① 柄谷はくじ引きで決めることで民主主義を機能させることを主張している。大澤もくじ引きの有効性を認めている。しかし双方ともくじ引きばかりでなく討論と選挙も部分的に導入するべきと主張している。
- ② 柄谷は選挙によって成り立つ民主主義が陥っている問題点を主張している。大澤も選挙と討論の問題点を指摘している。そして双方ともくじ引きの導入が民主主義の可能性を広げることを主張している。

- ③ 柄谷は選挙とくじ引きを併用することを主張している。大澤はくじ引きの有効性を認めつつ、選挙と討論の有効性も否定できないと主張している。つまり双方とも選挙と討論とくじ引きの組み合わせが有効であることを主張している。

- ④ 柄谷は政治家と有権者の不平等の原因は選挙にあると主張している。大澤もそうした不平等の解消を主張する。そして双方とも選挙で選ばれた集団の中からくじ引きでリーダーを決めることを主張している。

- ⑤ 柄谷は選挙と討論によって政治決定することの問題点は、他者への想像力の欠如にあることを指摘している。大澤もその問題点を同じく指摘する。しかし柄谷と異なり、くじ引きの導入を全体的に行うことを主張している。

問十 傍線部F「くじ引き」の特徴の説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

34

- ① 秘密投票では有権者と候補者のあいだでゆすりや買収が起こり得るが、くじ引きはそれを防ぐことができる。
- ② くじ引きの結果は実力や能力を測る物差しにはならないので、それに抵抗を感じる人もいる。
- ③ 努力の結果報酬が与えられるという考え方の持ち主は、くじ引きの導入に違和感を抱くかもしれない。
- ④ 能力よりも環境と条件に一切が左右されるというのが現代であり、解決策としてくじ引きの導入が考えられる。
- ⑤ 機会の平等が十分に保証されていない現代において、くじ引きは平等を取り戻すための解決策でありうる。

2025年度 一般入試 前期
(2月 1日)

問題訂正

国
語

5ページ 第一問 問一 a の選択肢

(誤) ④ 悪事にカタンする

(正) ④ 仕事のブントンをきめる

2025年度 一般入試 前期
(2月 2日)

問題訂正

国
語

16ページ 第三問 問題文

三行目

(誤) ……と言えは嘘に…
(正) ……と言えは嘘うそに…

八行目

(誤) ……いくら辛つらくとも…
(正) ……いくら辛つらくとも…

2025年度 一般入試 前期
(2月 4日)

問題訂正

国
語

16ページ 第三問 問題文9行目

(誤) …わたしたちの触覚器官に…

(正) …わたしたちの感覚器官に…

2025年度 一般入試 前期
(2月 5日)

問題訂正

国
語

14ページ 第二問 問八 選択肢②

(誤) ……念願の再開を…

(正) ……念願の再会を…

15ページ 第三問 問題文9行目

(誤) ……大人優位の関係が消滅する…

(正) ……大人優位の関係が消滅する…

2025年度 一般入試 前期
(2月 6日)

問題訂正

国
語

1ページ 第一問 問題文 一行目

(誤) …… 気候変動に伴う異常気候 |

(正) …… 気候変動に伴う異常気象 |